

令和6年度  
(2024年度)

教育実施計画書  
(カリキュラム・ポリシー)

中央工学校

建築工学科

(設計専攻・施工専攻・設備専攻)

# 目 次

I. 教 育 目 的	1
II. 指 導 目 標	1
III. 指 導 要 領	1
IV. 成 績 評 估 方 法 · 基 準	2
V. 教 科 構 成 表	3
VI. 教 科 別 教 育 實 施 計 畫 書	4

## I. 教育目的

建築工学科の教育は、修業年限3年という学習期間を有効に活用して、建築の幅広い分野に対応し、日進月歩する建築技術に適応できると共に、人間涵養教育を通じて豊かな社会性をも兼ね備えた技術者を養成することを目的とする。より高度で幅広い技術・技能及び知識の修得を図り、建築界に貢献できる人材を育成する。指導に当たっては、理論的根拠に裏打ちされた建築技術を修得させ、実務性を重視した設計、施工、設備の専攻を修めた「実践的技術者の養成」を、教育指導の基本とする。

## II. 指導目標

1. 建築の基本事項を確実に修得し、実践的な応用力を磨き、さらに高度な専門性に発展させるため、設計、施工、設備の専攻において系統的な教育を実施する。
2. 卒業後すぐに役立つ、実務能力に富む技術者の養成を目標とし、適格な状況判断能力と、社会の技術進展に適応可能な思考能力・応用能力を兼ね備えた有意な人材を育成するよう留意する。
3. 設計製図・施工実習の授業を核として関連授業の内容を理解し、木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の設計手法を学び、住宅設計・店舗設計・公共施設設計の設計技術を身に付ける。
4. 設計における手描きの作図技術と、各種 CAD・CG (BIM) の操作方法を理解し、実社会において即戦力となる技術を習得する。
5. 学習要項で推奨する以下の各種資格を在学中に取得することで、建築技術者としてのスキルを身に付ける。

推奨資格	目標合格率・取得率
ビジネス能力検定 B 検 3 級	100%
2 級建築施工管理技士補	70%
建築積算士補	80%

## III. 指導要領

建築工学科は、下記の指導方針に基づき教育を行う。

1. 技術進展の著しい建築界の状況を常に把握し、社会的・時代的要請に対応できる教育内容の維持と開発に務める。
2. 指導方法と指導内容の有効性を常に検証し、より効果的な教育手段と成果を追求する。  
建築技術の高度化は、技術の分化と進化を促しつつある反面、業務の遂行は個人作業から共同作業へと変化している。これに伴って、これからの技術者には、集団の秩序と規律のもとに、自己を主張できる能力と、協調できる人間性の両面が求められる。このことに十分留意して教育指導する。
3. 各教科担当者は、常時全体の教科構成に留意し、他の科目との有機的な関連を念頭において、教育指導に当たるものとする。企業と連携した教育を行うことで、職業に対して実践的な授業を実施する。
4. 知識・技能を確実なものとするには、演習・実習が効果的であることから、講義と演習・実習を有機的に組み合わせ、実効性の高いカリキュラムを構成する。本科の卒業生は、卒業と同時に一級・二級・木造建築士の受験資格を取得することができる。さらに一・二級の建築施工管理技士及び管工事施工管理技士についても、所定の実務経験で受験資格を得られる。
5. 指導に際しては、受験本位の教育に陥る事なく、あくまでも建築に関する基礎的能力と応用力の育成に努め、資格能力は結果としてついて来るとの前提に立って教育を実施する。また設計課題を通して製図の基本である手描きを指導し、設計製図課題等を通して、設計実務では常識となっている各種 CAD・CG(BIM) の操作を指導する。また、ビジネス能力検定 B 検 3 級は「ビジネスマナー」の授業で、2 級建築施工管理技術検定は「専攻概論」の授業で、建築積算士補は「建築積算」の授業や講習会で指導対応する。

## IV. 成績評価方法・基準

学則において、学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。

# V. 教科構成表

必修選択の別	教科区分	教 科 目	第1学年		第2学年		第3学年		授業時数 合計	実務家教員 担当教科
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
必修 科目	一般科目	数 学	2	1					45	
		ビ ジ ネ ス マ ナ	1						15	
		合 宿 研 修	(36)		(36)		(36)		(108)	
		実 務 研 修					【40】		【40】	
	専門 科目	建 築 計 画	2	2					60	○
		環 境 工 学			2	2			60	○
		建 築 史			1				15	○
		建 築 設 備			2	2			60	○
		建 築 法 規	2	2	1				75	○
		構 造 力 学	2	2					60	
		構 造 設 計			2	2			60	○
		建 築 一 般 構 造	2	2					60	
		建 築 材 料	2						30	○
		建 築 材 料 実 験				2			30	○
		建 築 施 工			2	2			60	○
		建 築 積 算			2	2			60	○
		建 築 透 視 図		3					45	
		建 築 計 画 演 習	3						45	○
		C A D 演 習	2	3					75	○
		B I M 演 習			3				45	○
プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	3	3	3	3			180	○		
2 級 建 築 施 工 管 理				3			45	○		
実習科目	設 計 製 図	9	12	12	12			675	○	
	総 合 建 設 実 習			(60)				(60)	○	
選択 科目	設計 専攻 実習科目	設 計 実 務					1		15	○
		設 計 原 論					1		15	○
		建 築 史 特 論					1		15	○
		設 計 演 習					3	3	90	○
		構 造 演 習						3	45	○
		施 工 演 習					3		45	○
		専 攻 概 論					3	3	90	○
		設 計 専 攻 実 習					15	18	495	○
	施 工 管 理 実 習					(48)		(48)	○	
	施工 専攻 実習科目	施 工 管 理					<2>		<30>	
		施 工 積 算						<3>	<45>	
		設 計 演 習						<3>	<45>	
		構 造 演 習					<6>		<90>	
		専 攻 概 論					<3>	<3>	<90>	○
		施 工 専 攻 実 習					<16>	<18>	<510>	○
	施 工 管 理 実 習					(48)		(48)	○	
設備 専攻 実習科目	建 築 設 備 実 験 実 習					<3>		<45>		
	リ フ ォ ー ム					<3>		<45>	○	
	電 気 設 備					<3>	<6>	<135>	○	
	設 計 演 習					<3>		<45>	○	
	施 工 演 習						<3>	<45>		
	専 攻 概 論					<3>	<3>	<90>		
	C A D 製 図						<3>	<45>		
	設 備 専 攻 実 習					<12>	<12>	<360>		
施 工 管 理 実 習					(48)		(48)	○		
選択科目	研修科目	国 内 建 築 研 修	《36》		《36》		《36》		《36》	
		海 外 建 築 研 修	《72》		《72》		《72》		《72》	
	特別選択科目	施 工 管 理 実 習	《48》		《48》		《48》		《48》	
週	授 業 時 数	30	30	30	30	27	27	2610		
週	授 業 時 数	15	15	15	15	15	15	90		
年 間	( 3 0 週 ) 授 業 時 数	900		900		810		2610		
						【40】		【40】		

※ 《 》 は任意選択 ( ) は特別授業 < > は専攻別選択

# 建築工学科（昼間）R06時間割用

必修選択の別	教科区分	教 科 目	第1学年 (R6入学)		第2学年 (R5入学)		第3学年 (R4入学)		授業時数 合 計
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	
必修科目	一般科目	数 学	2	1					45
		ビ ジ ネ ス マ ナ ー	1						15
		合 宿 研 修	(36)		(36)		(36)		(108)
		実 務 研 修					【80】		【80】
	専門科目	建 築 計 画	2	2					60
		環 境 工 学			2	2			60
		建 築 史			1				15
		建 築 設 備			2	2			60
		建 築 法 規	2	2	1				75
		構 造 力 学	2	2					60
		構 造 設 計			2	2			60
		建 築 一 般 構 造	2	2					60
		建 築 材 料	2						30
		建 築 材 料 実 験				2			30
		建 築 施 工			2	2			60
		建 築 積 算			2	2			60
		建 築 透 視 図		3					45
		建 築 計 画 演 習	3						45
		C A D 演 習	2	3					75
		B I M 演 習			3				45
プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	3	3	3	3			180		
2 級 建 築 施 工 管 理				3			45		
実習科目	設 計 製 図	9	12	12	12			675	
	総 合 建 設 実 習			(60)				(60)	
選択必修科目	設計専攻	設 計 実 務					1		15
		設 計 原 論					1		15
		建 築 史 特 論					1		15
		設 計 演 習					3	3	90
		構 造 演 習						3	45
		施 工 演 習					3		45
		専 攻 概 論					3	3	90
		設 計 専 攻 実 習					15	18	495
	実習科目	施 工 管 理 実 習					(48)		(48)
	施工専攻	施 工 管 理					<2>		<30>
		施 工 積 算						<3>	<45>
		設 計 演 習						<3>	<45>
		構 造 演 習					<6>		<90>
		専 攻 概 論					<3>	<3>	<90>
		施 工 専 攻 実 習					<16>	<18>	<510>
	実習科目	施 工 管 理 実 習					(48)		(48)
	設備専攻	建 築 設 備 実 験 実 習					<3>		<45>
		リ フ ォ ー ム					<3>		<45>
		電 気 設 備					<3>	<6>	<135>
		設 計 演 習					<3>		<45>
施 工 演 習							<3>	<45>	
専 攻 概 論						<3>	<3>	<90>	
C A D 製 図							<3>	<45>	
設 備 専 攻 実 習						<12>	<12>	<360>	
実習科目	施 工 管 理 実 習					(48)		(48)	
選択科目	研修科目	国 内 建 築 研 修	《 3 6 》		《 3 6 》		《 3 6 》		《 36 》
		海 外 建 築 研 修	《 7 2 》		《 7 2 》		《 7 2 》		《 72 》
	特別選択科目	施 工 管 理 実 習	《 4 8 》		《 4 8 》		《 4 8 》		《 48 》
週	授 業 時 数	30	30	30	30	27	27	2610	
週	授 業 時 数	15	15	15	15	15	15	90	
年 間	( 3 0 週 ) 授 業 時 数	900		900		810		2610	
						【80】		【80】	

※ 《 》 は任意選択 ( ) は特別授業 < > は専攻別選択

## VI. 教科別教育実施計画書

一般科目	講義	数学	1 学年	前・後期
目的・目標 (指標)		<p>目的：建築に必要不可欠な数学的素養を演習を通して理解する。</p> <p>前期目標：工業技術者として電卓の基本操作が確実にでき、数学の記号の意味を学習し、建築に必要な計算方法と三角関数の基礎を理解する。</p> <p>後期目標：微分積分を理解する。また、建築と関連した数学的思考ができ、計算によって多様な条件においても答えが導けるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	概論	導入、基礎数学力の確認		
2	電卓操作(1)	電卓の基本操作		
3	電卓操作(2)	電卓の応用操作		
4	数学の基礎知識(1)	基礎数学(1)		
5	数学の基礎知識(2)	基礎数学(2)		
6	数学の基礎知識(3)	基礎数学(3)		
7	数学の基礎知識(4)	基礎数学(4)		
8	数と式(1)	数と式の基礎(1)		
9	数と式(2)	数と式の基礎(2)		
10	数と式(3)	数と式の基礎(3)		
11	数と式(4)	数と式の基礎(4)		
12	図形と計量(1)	図形と計量の基礎(1)		
13	図形と計量(2)	図形と計量の基礎(2)		
14	図形と計量(3)	図形と計量の応用(1)		
15	図形と計量(4)	図形と計量の応用(2)		
後 期 (1 時限)				
週	教程	教程内容		
1	数学 概論	導入、おさらい		
2	数と式 応用(1)	数と式の応用(1)		
3	数と式 応用(2)	数と式の応用(2)		
4	数と式 応用(3)	数と式の応用(3)		
5	数と式 応用(4)	数と式の応用(4)		
6	微分・積分(1)	微分の基礎		
7	微分・積分(2)	微分の応用		
8	微分・積分(3)	積分の基礎		
9	微分・積分(4)	積分の応用		
10	数学の応用・発展(1)	建築と数学(1)		
11	数学の応用・発展(2)	建築と数学(2)		
12	数学の応用・発展(3)	建築と数学(3)		
13	数学の応用・発展(4)	建築と数学(4)		
14	関数とグラフ(1)	関数とグラフの基礎		
15	関数とグラフ(2)	関数とグラフの応用		

一般科目	講義	ビジネスマナー	1 学年	前期
目的・目標（指標）		<p>目的：新入社員としての基礎的社会常識を理解する。  前期目標：就職活動に向け、挨拶、言葉使い、電話の対応、文章の書き方に重点を置きながら、ビジネス検定、SPI 試験対策をする。</p>		
指 導 内 容				
前 期（1 時限）				
週	教程		教程内容	
1	概論		授業目的、内容説明、組織、業務基本、文章について	
2	基礎理解	職業倫理(1)	仕事における基礎及び基本(1)	
3		職業倫理(2)	仕事における基礎及び基本(2)	
4		職業倫理(3)	対人関係とコミュニケーション	
5		ビジネスにおける一般常識(1)	社会人たるべきビジネスマナー(1)	
6		ビジネスにおける一般常識(2)	社会人たるべきビジネスマナー(2)	
7		ビジネスにおける一般常識(3)	仕事への取り組み方(1)	
8		ビジネスにおける一般常識(4)	仕事への取り組み方(2)	
9		ビジネス実務(1)	ビジネス文書の基本(1)	
10		ビジネス実務(2)	ビジネス文書の基本(2)	
11		ビジネス実務(3)	電話の対応(1)	
12		ビジネス実務(4)	電話の対応(2)	
13	一般常識	情報処理(1)	統計及びデータの処理方法(1)	
14		情報処理(2)	統計及びデータの処理方法(2)	
15	就職対策	SPI 試験について	試験概要、問題演習	
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

一般科目	実技	実務研修	3 学年	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：実社会において建設関係の実務について体験・研修し、併せて学校においては学ぶことのできない社会の規律・規則等を体得する。</p> <p>後期目標：第 2 学年の夏季休暇中に全員履修を原則に実務研修を修了できるようにする。</p>		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（40 時限）				
週	教程	教程内容		
1	1 学年 12 月 実務研修ガイダンス			
2	(1 学年全員に実務研修の研修目的、研修方法、実施要領等を説明)			
3	1 学年 1 月 実務研修体験報告会			
4	(2 年生の代表者から 1 学年全員に、実務研修の成果発表をし、パネルディスカッションで注意事項、			
5	失敗談、アドバイス、就職活動との関連など話をしてもらう。)			
6	実務研修実施時期			
7	7 月～9 月（夏季休暇中） 対象 2 年生			
8	*詳細は、実務研修要項による			
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	講義	建築計画	1 学年	前・後期
目的・目標（指標）		<p>目的：設計製図との関連を踏まえて、建築を計画する基本的能力を養う。  前期目標：居住施設・学校教育施設の機能に即した計画の理論・手法を理解できるようになる。  後期目標：社会教育・医療福祉・商業施設の機能に即した計画の理論・手法を理解できるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		設計事務所を主宰し、設計監理業務に関する知識を通して計画・インテリア・設計の関与に関する造形が深く、講師としての指導経験も豊富な講師である。		
指 導 内 容				
前 期（2 時限）				
週	教程	教程内容		
1	計画と設計(1)	建築とは何か・建築計画とは何か		
2	計画と設計(2)	建築計画と建築設計の関係		
3	計画と設計(3)	建築計画が教えること・建築計画が教えないこと		
4	居住施設(1)	伝統的住宅		
5	居住施設(2)	住様式の変化		
6	居住施設(3) 戸建住宅①	平面の種類		
7	居住施設(4) 戸建住宅②	各室の計画		
8	居住施設(5) 戸建住宅③	規模計画、事例分析、団地計画		
9	居住施設(6) 集合住宅	集合住宅の種類		
10	居住施設(7)	細部計画、事例分析		
11	学校教育施設(1)	学校建築の変遷		
12	学校教育施設(2) 幼稚園(保育園)①	幼稚園と保育所		
13	学校教育施設(3) 幼稚園(保育園)②	基本計画、各室計画		
14	学校教育施設(4) 小学校・中学校①	運営方式、配置形式		
15	学校教育施設(5) 小学校・中学校②	各部の計画・事例分析		
後 期（2 時限）				
週	教程	教程内容		
1	社会教育施設(1) 図書館①	生活圏とコミュニティ施設・公共図書館の役割		
2	社会教育施設(2) 図書館②	閲覧・貸出方式・各室の計画・事例分析		
3	社会教育施設(3) 美術館①	美術館の役割と構成・基本計画		
4	社会教育施設(4) 美術館②	各室の計画・事例分析		
5	社会教育施設(5) コミュニティセンター①	地域集会施設概要		
6	社会教育施設(6) コミュニティセンター②	集会機能に特化した施設・一部の機能が専門化した施設・事例分析		
7	医療・福祉施設(1) 病院①	基本計画		
8	医療・福祉施設(2) 病院②	部門構成・事例分析		
9	医療・福祉施設(3) 高齢者施設①	高齢者施設概要		
10	医療・福祉施設(4) 高齢者施設②	各部計画・事例分析		
11	商業施設(1)	規模計画と経済効率		
12	商業施設(2) 事務所ビル	基本計画・基準階平面の分類・事例分析		
13	商業施設(3) 劇場	劇場の種類・各部計画・事例分析		
14	商業施設(4) 百貨店・スーパーマーケット	大規模店舗の種類と構成・各部計画・事例分析		
15	商業施設(5) 駐車場	駐車場概要・車路・事例分析		

専門科目	講義	環境工学	2 学年	前・後期
目的・目標 (指標)	<p>目 的：建築と環境の関わりを学習し、快適な建築環境を得るための方法を理解する。  前期目標：換気・日照・日影曲線・日射・採光・照明等を理解し、昼光率の計算ができるようになる。  後期目標：熱・騒音・音響等を理解し、熱還流計算・音響計算ができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	環境系分野の学問において卓越した学究の徒であり、学生指導上の秀でた教授法を有しており当該科目において最適の講師である。			
指 導 内 容				
前 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	建築環境工学概論	いま建築に求められていること		
2	室内空気汚染と換気(1)	室内の汚染物質と燃焼器具による空気汚染		
3	室内空気汚染と換気(2)	空気汚染の基準とシックハウス症候群		
4	室内空気汚染と換気(3)	自然換気と機械換気・換気量		
5	室内空気汚染と換気(4)	全般換気と局所換気		
6	日照と日射(1)	日照の必要性と居住環境・太陽位置		
7	日照と日射(2)	日影曲線		
8	日照と日射(3)	日影図と日影規制		
9	日照と日射(4)	日射量と日射の遮蔽		
10	採光と照明(1)	側光量と照度基準		
11	採光と照明(2)	直射光と天空光・昼光率		
12	採光と照明(3)	昼光率の計算方法		
13	採光と照明(4)	照明と演色		
14	色彩(1)	表色		
15	色彩(2)	色彩の感覚と色彩調節		
後 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	断熱と結露防止(1)	熱貫流量・熱貫流率		
2	断熱と結露防止(2)	断熱性能・外断熱と内断熱		
3	断熱と結露防止(3)	湿度と空気線図		
4	断熱と結露防止(4)	表面結露		
5	断熱と結露防止(5)	外断熱・内断熱と表面結露		
6	断熱と結露防止(6)	表面結露の防止方法・内部結露		
7	体感温度(1)	温熱環境指標の概念		
8	体感温度(2)	有効温度と修正有効温度		
9	体感温度(3)	PMV と新有効温度・局所不快感		
10	騒音防止と音響設計(1)	音の伝わり方と強さ		
11	騒音防止と音響設計(2)	騒音の表示方法・距離による騒音防止		
12	騒音防止と音響設計(3)	透過損失と床衝撃音		
13	騒音防止と音響設計(4)	遮音性能の基準		
14	騒音防止と音響設計(5)	吸音による騒音防止		
15	騒音防止と音響設計(6)	空間の形状・残響と反響		

専門科目	講義	建築史	2 学年	前期
目的・目標 (指標)	<p>目的：建築の歴史的発展過程を理解し、建築界の将来を展望する能力を習得する。</p> <p>前期目標：日本・西洋・近代・現代における建築歴史を理解できるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築学的歴史探求の分野においての第一人者であり、学問的業績に加え人物的にも学生指導に随一の指導力を発揮される講師である。</p>			
指 導 内 容				
前 期 (1 時限)				
週	教程		教程内容	
1	建築の歴史	日本建築史 (1)	建築の発生、古代	
2		日本建築史 (2)	飛鳥、奈良、平安、鎌倉、室町	
3		日本建築史 (3)	江戸(城郭・住宅・数寄屋)	
4		日本建築史 (4)	江戸(城下町・霊廟・学校)	
5		西洋建築史 (1)	エジプト、オリエント、ギリシャ、ローマ、	
6		西洋建築史 (2)	ビザンチン、イスラム	
7		西洋建築史 (3)	ロマネスク、ゴシック	
8		西洋建築史 (4)	ルネサンス、バロック、ロココ	
9		近代建築史 (1)	ネオクラシズム、ピクチャレスク、ネオルネサンス	
10		近代建築史 (2)	アールヌーボー、ゼツェッション	
11		近代建築史 (3)	近代建築運動	
12		近代建築史 (4)	バウハウス、エスプリヌーボー、シーム	
13		近代建築史 (5)	三大巨匠(ミース、コルビュジェ、ライト)	
14		近代建築史 (6)	日本の近代建築	
15		現代建築史	丹下、磯崎、槇、安藤、R・ベンチューリ	
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	講義	建築設備	2 学年	前・後期
目的・目標 (指標)	<p>目的：高度化する建築設備に対応し、設備の基礎を中心に学ぶ。また、実例図集を使用し、設備計画を行う事により、合理的・効果的な設備計画に対する能力を習得し、建築設計に活かすことが出来るようになる。</p> <p>前期目標：給排水衛生設備について理解する。</p> <p>後期目標：空気調和換気設備・電気設備について理解する。</p>			
実務家教員の実務経験	建築設備設計・施工業を中心とした業務に携わり、幅広い専門領域における設備設計監理の実績及び経験が豊富である。			
<b>指 導 内 容</b>				
前 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	建築設備概要	建築設備の役割・設備計画		
2	環境と設備	地球環境と建築設備・設備計画		
3	給水設備 (1)	給水設備の概要		
4	給水設備 (2)	給水システム・給水機器		
5	給湯設備 (1)	給湯設備の概要		
6	給湯設備 (2)	給湯方式		
7	排水通気設備 (1)	排水・通気設備の役割		
8	排水通気設備 (2)	通気方式・トラップと間接排水・雨水排水		
9	排水処理設備	排水処理設備の役割・浄化槽		
10	ガス設備	ガスの種類と供給方式・機器と給排気		
11	衛生器具設備 (1)	衛生器具設備の概要		
12	衛生器具設備 (2)	衛生器具設備の設置計画		
13	消火設備 (1)	消火設備の基本事項・屋内消火栓設備		
14	消火設備 (2)	スプリンクラー消火設備・その他の消火設備		
15	まとめ	まとめ 実験室内設備説明		
後 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	空気調和設備 (1)	空気調和設備の目的としくみ		
2	空気調和設備 (2)	空気調和と室内環境・空調負荷		
3	空気調和設備 (3)	空気調和方式の種類・特徴		
4	空気調和設備 (4)	熱源・搬送設備		
5	空気調和設備 (5)	空気調和機		
6	空気調和設備 (6)	換気設備・排煙設備・自動制御設備		
7	電気設備 (1)	電気設備の役割と構成・関連法規		
8	電気設備 (2)	受変電設備・幹線設備・動力設備		
9	電気設備 (3)	自家発電設備・蓄電池設備		
10	電気設備 (4)	照明設備・コンセント設備		
11	電気設備 (5)	情報・通信設備		
12	防災設備 (1)	自動火災報知設備		
13	防災設備 (2)	防災照明設備・避雷設備		
14	搬送設備	エレベータ・エスカレータ設備		
15	まとめ	まとめ 実験室内設備説明		

専門科目	講義	建築法規	1 学年	前・後期
目的・目標 (指標)		<p>目的：建築物に関わる基本的な建築基準法等の知識を系統的、関連的に習得し、設計・計画に当たっての運用的な能力を活かすことが出来るようになる。</p> <p>前期目標：個々の建築物単位に適用する単体規定、敷地単位に適用する集団規定の容積率・建蔽率等を理解する。</p> <p>後期目標：集団規定の高さ制限等、防火規定、避難規定について理解する。</p>		
実務家教員の実務経験		<p>建築士事務所を長年主宰運営され、設計監理業を主たる業務とし、法令遵守指導に優れた指導力を発揮され、当該科目指導に適した講師である。</p>		
指 導 内 容				
前 期 (2 時限)				
週		教程	教程内容	
1	総則	用語の定義(1)	法の目的・法の体系と構成・建築物・特殊建築物・居室	
2		用語の定義(2)	主要構造部・延焼のおそれのある部分、耐火構造、他	
3		用語の定義(3)	不燃材料、耐火建築物・建築・敷地・地階・避難階、他	
4		面積・高さの算定(1)	敷地面積・建築面積・床面積・延べ面積、他	
5		面積・高さの算定(2)	建築物の高さ・軒の高さ・階数・地盤面、他	
6	単体規定	一般構造(1)	構造耐力・耐火建築物等としなければならない特殊建築物、他	
7		一般構造(2)	居室の採光・地階における住宅等の居室	
8		一般構造(3)	居室の換気・居室の天井高・居室の床の高さ	
9		一般構造(4)・建築設備	階段各部の寸法等・界壁の遮音・便所・避雷針・昇降機、他	
10	単体規定	構造強度(1)	木造(土台基礎・柱の小径・横架材・筋かい)	
11		構造強度(2)	木造(壁量計算)・補強コンクリートブロック造の塀、他	
12	集団規定	道路関係	道路の定義・接道基準・道路内の建築制限・壁面線、他	
13		用途地域	用途制限	
14		容積率	容積率	
15		建蔽率	建蔽率・外壁の後退距離、他	
後 期 (2 時限)				
週		教程	教程内容	
1	集団規定	高さ制限(1)	絶対高さ・道路高さ制限(1)	
2		高さ制限(2)	道路高さ制限(2)	
3		高さ制限(3)	隣地高さ制限・北側高さ制限	
4		日影規制	日影規制	
5		防火地域 ※単体規定	防火地域・準防火地域 ※法 22 条指定区域	
6	単体規定	防火規定(1)	防火壁・防火区画(1)	
7		防火規定(2)	防火区画(2)・界壁等の防火措置、他	
8		防火規定(3)	内装制限(1)	
9		防火規定(4)	内装制限(2)	
10	単体規定	避難規定(1)	廊下の幅・直通階段の設置	
11		避難規定(2)	2 以上の直通階段	
12		避難規定(3)	避難階段・特別避難階段・各種出入口等・屋上広場	
13		避難規定(4)	排煙設備	
14		避難規定(5)	非常用の照明装置・非常用の進入口	
15		避難規定(6)	敷地内の通路・非常用昇降機・地下街	

専門科目	講義	建築法規	2 学年	前期
目的・目標 (指標)		<p>目的：建築基準法の制度規定および関連法規の学習を行う。実際の設計図書をもとに法規演習を行い、実務的手法の理解を深める。</p> <p>前期目標：学習および演習により、確認申請業務、建築士法業法活用、バリアフリー法を利活用した設計課題作成ができるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		建築設計事務所に勤務経験があり、法規関連の指導に卓越した指導力を発揮され、当該分野への造詣が深い講師である		
指 導 内 容				
前 期 (1 時限)				
週	教程		教程内容	
1	制度規定	確認制度	確認申請	
2		各種建築手続き	建築工事届・完了検査・中間検査	
3		違反建築物に対する措置	違反建築物に対する措置	
4	関連法規	建築士法(1)	目的・定義・業務範囲・免許	
5		建築士法(2)	業務・建築士事務所、他	
6		都市計画法(1)	用語・都市計画の内容	
7		都市計画法(2)	都市計画の決定及び変更・開発行為の規制、他	
8		建設業法(1)	目的・定義・建設業の許可	
9		建設業法(2)	建設工事の請負契約・元請負人の義務、他	
10		バリアフリー法(1)	目的と用語・利用等円滑化のための措置	
11		バリアフリー法(2)	認定制度に特例・建築基準法の特例、他	
12		耐震改修促進法	目的と用語、建築物の所有者が講ずべき措置、認定制度の特例	
13		品確法	目的・定義・日本住宅性能表示基準・住宅性能評価・紛争処理	
14		消防法(1)	消防法の内容・防火対象物と消火設備	
15		消防法(2)	消防用設備 警報設備 避難設備 消防用水の設置基準、他	
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	講義	構造力学	1 学年	前・後期
目的・目標 (指標)		<p>目的：建築物を安全に設計するために必要な構造の基礎知識について、演習を用いて理解する。</p> <p>前期目標：建築物に作用する外力や力のつり合いを理解し、静定構造物の反力・応力計算ができるようになる。</p> <p>後期目標：静定トラスの応力、断面諸性能や応力度、座屈やたわみ、不静定構造物の応力の計算ができるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期 (2 時限)				
週	教程		教程内容	
1	構造力学概論		構造力学の目的・建築物との関連	
2	基本事項	荷重・支点と節点	荷重の種類・支点節点の種類・反力と反力数・その他	
3	構造物の判定		構造物の安定・不安定、静定・不静定	
4	力の釣り合い	力の合成・分解	図式解法・算式解法	
5	静定構造物	支点反力・応力	反力の求め方・応力の種類・釣り合い条件式	
6	反力(1)		片持ち梁の反力—集中荷重、分布荷重が作用した場合	
7	反力(2)		単純梁の反力—集中荷重が作用した場合	
8	反力(3)		単純梁の反力—分布荷重が作用した場合	
9	反力(4)		ラーメンの反力—集中荷重が作用した場合	
10	反力(5)		ラーメンの反力—分布荷重が作用した場合	
11	応力(1)		片持ち梁の応力—集中荷重、分布荷重が作用した場合	
12	応力(2)		単純梁の応力—集中荷重が作用した場合	
13	応力(3)		単純梁の応力—分布荷重が作用した場合	
14	応力(4)		ラーメンの応力—集中荷重が作用した場合	
15	応力(5)		ラーメンの応力—分布荷重が作用した場合	
後 期 (2 時限)				
週	教程		教程内容	
1	静定構造物	静定トラス(1)	トラスの種類・反力・応力の求め方	
2	静定トラス(2)		節点法による応力の求め方(1)	
3	静定トラス(3)		節点法による応力の求め方(2)	
4	静定トラス(4)		切断法による応力の求め方(1)	
5	静定トラス(5)		切断法による応力の求め方(2)	
6	断面性能	断面一次モーメント	断面一次モーメントによる図芯の求め方	
7	断面二次モーメント		断面二次モーメント求め方・公式	
8	断面係数		断面係数求め方・公式	
9	応力度と変形	応力度(1)	垂直応力度・せん断応力度・曲げ応力度	
10	応力度(2)		座屈長さ・座屈荷重	
11	ひずみ度		ひずみ度・ヤング係数	
12	不静定構造物	概論	不静定構造物概論	
13	たわみ角法		たわみ角法の基本、節点方程式・層方程式	
14	固定モーメント法(1)		固定モーメント法の基本・剛度と分割率	
15	固定モーメント法(2)		分割モーメントと到達モーメント・実用計算法	

専門科目	講義	構造設計	2 学年	前・後期
目的・目標 (指標)	<p>目的：構造設計における基本的な許容応力度設計を通して、構造設計の手法や流れを理解する。  前期目標：鉄筋コンクリート構造の計算手法を理解して、床・梁の断面設計ができるようになる。  後期目標：鉄骨造の構造設計の計算手法を理解して、接合部・柱梁の断面設計ができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>構造設計事務所に勤務し、構造設計を主たる業務とし、構造関連の指導における知識と経験を有している。</p>			
指 導 内 容				
前 期 (2 時限)				
週	教程		教程内容	
1	構造設計概論		鉄筋コンクリート構造設計概論	
2	不静定構造物概論		不静定構造応力計算演習	
3	設計用荷重		固定荷重・積載荷重	
4	床版の設計	スラブの種類	片持ちスラブ・四辺固定スラブ・その他	
5	応力の求め方		基準式・図表による算定	
6	断面算定と配筋		有効成・応力中心距離	
7	小梁の設計	応力の求め方	単スパン梁・連続スパン梁	
8	断面算定と配筋		有効成・応力中心距離	
9	剛度・剛比、基本応力		構造スパンと構造階高、剛比一覧、集中荷重・等分布荷重	
10	地震層せん断力概要		地震力の考え方	
11	大梁の設計	曲げに対する設計	引張鉄筋比・釣り合い鉄筋比・その他	
12	せん断設計		許容せん断力・せん断補強筋比	
13	柱の設計	軸力と曲げに対する設計	主筋の方向性・その他・図表による鉄筋量の算定	
14	せん断設計		許容せん断力・せん断補強筋比	
15	終局耐力設計概要			
後 期 (2 時限)				
週	教程		教程内容	
1	鉄筋コンクリート構造設計概論		鉄骨構造設計概論	
2	不静定構造応力計算演習		鋼材の種類・許容応力度、ヤング係数・その他	
3	固定荷重・積載荷重		許容引張応力度・有効断面積	
4	片持ちスラブ・四辺固定スラブ・その他		偏心接合の設計、例題による設計	
5	基準式・図表による算定		許容圧縮応力度、座屈長さ・座屈軸	
6	有効成・応力中心距離		例題による設計	
7	単スパン梁・連続スパン梁		横座屈・座屈長さ・幅厚比	
8	有効成・応力中心距離		応力・許容曲げ応力・許容せん断力・たわみ	
9	構造スパンと構造階高、剛比一覧、集中荷重・等分布荷重		短期応力を考慮した設計	
10	地震力の考え方		例題による設計	
11	引張鉄筋比・釣り合い鉄筋比・その他		軸力と曲げモーメントを考慮した設計	
12	許容せん断力・せん断補強筋比		例題による設計	
13	主筋の方向性・その他・図表による鉄筋量の算定		高力ボルト接合、溶接接合	
14	許容せん断力・せん断補強筋比		壁ブレースの設計	
15			鉄骨構造設計概論	

専門科目	講義	建築一般構造	1 学年	前・後期
目的・目標（指標）		<p>目的：建築物で採用される代表的な構造形式について、演習を通して理解する。</p> <p>前期目標：木構造の構造概要や特徴を理解し、在来軸組工法における床組や架構の計画ができるようになる。</p> <p>後期目標：鉄骨造・鉄筋コンクリート造の構造概要や特徴を理解し、建物の用途や規模に応じて、適切に構造形式や架構方式を決定できるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期（2 時限）				
週	教程	教程内容		
1	建築一般構造総論	構造概要、構造形式、構造計画、在来構法・枠組壁工法		
2	木構造の木材	木材の性質、長所と短所、比重と強度、木質材料		
3	木構造の基礎	基礎の種類、根切、地業、床下換気口、アンカーボルト		
4	木構造の軸組(1)	軸組部材名称、土台、柱と種類		
5	木構造の軸組(2)	桁、胴差、筋かいの種類		
6	木構造の軸組(3)	梁、火打材、壁の種類、補強方法		
7	木構造の軸組(4)	各種接合部納まり、耐力壁の配置、間柱、貫		
8	木構造の床組(1)	1階床組、床組の構成		
9	木構造の床組(2)	2階床組、床組の構成		
10	木構造の床組(3)	床伏図の演習		
11	木構造の小屋組(1)	小屋組の種類、和小屋と洋小屋、屋根構成部材		
12	木構造の小屋組(2)	切妻屋根、寄棟屋根、入母屋屋根の構成		
13	木構造の小屋組(3)	小屋伏図の演習		
14	木構造の階段	階段の種類、各種寸法、設計手法		
15	木構造の造作	和室の造作、天井、壁、床(床の間)の納まり、建具		
後 期（2 時限）				
週	教程	教程内容		
1	鉄骨造の鋼材	鋼材の特徴、許容応力度、鋼材の形状		
2	鉄骨造の基礎	鉄骨造の特徴、長所と短所、構造形式		
3	鉄骨造の構造(1)	各種接合方法、ボルト接合、ボルトの配置		
4	鉄骨造の構造(2)	溶接接合、突合せ溶接、隅肉溶接		
5	鉄骨造の構造(3)	溶接接合の欠陥、座屈長さ、局部座屈、たわみ		
6	鉄骨造の構造(4)	柱と梁の種類、柱と梁の接手と仕口		
7	鉄骨造の構造(5)	筋かい(ブレース)、柱脚の種類、床板、階段、耐火被覆		
8	鉄筋コンクリート造の材料	コンクリートと鉄筋の特徴、構造特性、圧縮と引張強度		
9	鉄筋コンクリート造の基礎	鉄筋コンクリート造の特徴、構造計画、柱の配置計画		
10	鉄筋コンクリート造の構造(1)	鉄筋の配筋計画、フック、定着、接手、かぶり厚さ		
11	鉄筋コンクリート造の構造(2)	梁の構造と配筋、せん断補強筋、釣り合い鉄筋比		
12	鉄筋コンクリート造の構造(3)	柱の構造と配筋、せん断補強筋、鉄筋間隔		
13	鉄筋コンクリート造の構造(4)	柱梁接合部配筋、スラブ配筋、耐力壁配筋、階段配筋		
14	鉄筋コンクリート造の構造(5)	壁式鉄筋コンクリート造		
15	その他の構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、補強コンクリートブロック造 他		

専門科目	講義	建築材料	1 学年	前期
目的・目標 (指標)	<p>目的：木材・鋼材・コンクリートなど建物の構造材に使用される材料を中心に、仕上げ材・断熱材・防水材など各種建築材料の特性や使用方法を理解する。</p> <p>前期目標：建物の部位と使用されている建築材料の関係を把握し、設計における仕上げの選定及びディテールの検討ができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築士事務所を主宰運営され、設計監理業を主たる業務とし、当該演習科目の指導において知識が深く、的確な指導力を発揮できる講師である。</p>			
<b>指 導 内 容</b>				
前 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	建築材料の概要	建築材料の歴史・規格・環境		
2	木材(1)	木材の種類・特徴		
3	木材(2)	木材の強度・構造・規格・エンジニアリングウッド		
4	コンクリート(1)	セメント・骨材・水		
5	コンクリート(2)	混和材料・コンクリートの性質・コンクリートの調合設計・種類・製品		
6	鋼材(1)	鋼材の工程・特徴・種類		
7	鋼材(2)	鋼材の性質・腐食と防食・非鉄金属		
8	焼成品	タイルの種類・特徴		
9	ガラスと石	ガラスの歴史・特徴・種類・石の特徴・分類		
10	左官材料	左官の定義・特徴・種類		
11	塗料	塗料の種類、特徴		
12	部位別・性能別材料(1)	床・壁・天井材料		
13	部位別・性能別材料(2)	防水・防火・耐火材料		
14	部位別・性能別材料(3)	断熱・防音・吸音材料		
15	まとめ			
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	実験	建築材料実験	2 学年	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：建築物で採用される代表的な構造材料の力学的性質について、実験を通して理解する。</p> <p>前期目標：木材・鋼材・コンクリートの力学的性質についてを理解するとともに、各種実験の手順や目的、結果の整理ができるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		構造設計事務所に勤務し、構造設計を主たる業務とし、構造関連の指導における知識と経験を有している。		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（2 時限）				
週	教程		教程内容	
1	セメント・コンクリート	セメント・コンクリート概論	セメント・コンクリートの概論	
2		計画調合(1)	調合強度の算定・水セメント比の算定・各材料の算定	
3		計画調合(2)	調合強度・水セメント比・各材料の算定の計算演習	
4		セメント・コンクリート試験(1)	コンクリート打設、スランプ試験、空気量試験	
5		セメント・コンクリート試験(2)	セメント・コンクリート演習	
6	鋼材	鋼材概論(1)	鋼材概論	
7		鋼材概論(2)・ノギス	ノギス概論・鉄筋引張試験概略	
8	セメント・コンクリート	セメント・コンクリート試験(3)	コンクリート圧縮試験	
9		セメント・コンクリート試験(4)	セメント・コンクリート演習	
10	鋼材	鉄筋引張試験(1)	鉄筋引張試験	
11		鉄筋引張試験(2)	鋼材演習	
12	木材	木材概論	木材概論	
13		木材圧縮試験(1)	木材圧縮試験	
14		木材圧縮試験(2)	木材演習	
15	総合演習		演習問題(セメント・コンクリート・鋼材・木材)	

専門科目	講義	建築施工	2 学年	前・後期
目的・目標（指標）	<p>目的：建築物を構築する各工事の実例を中心に、施工手順や施工法等を理解する。  前期目標：工事見積りや契約、現地調査、安全管理、工程表及び躯体工事を中心に、建築物を構築するための必要な基礎知識を理解できるようになる。  後期目標：建築現場における各種工事を中心に、建築現場技術者としての基礎ができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築設計事務所を主宰し、設計監理業務に従事しながら、建築関連の幅広い知識で資格試験対策についても造詣が深く、的確な授業ができる講師である。</p>			
<b>指 導 内 容</b>				
前 期（2 時限）				
週		教程	教程内容	
1	施工概要	建築施工	建築施工とは、施工の業務と工事の流れ	
2	建築の施工	施工計画	事前調査、施工計画書、工程計画、工事計画、距離測量・水準測量・角測量	
3		施工管理	現場管理、材料管理、品質管理、安全管理、各種届出、産業廃棄物、記録と報告	
4	地盤調査	概要・本調査	種類、工法、予備調査、載荷試験、標準貫入試験	
5	仮設工事	概要、仮設工事	種類、仮囲い、現場事務所、各種下小屋、材料置き場と倉庫、縄張り・遣方・足場	
6	地盤改良工事、土工事	概要、地盤改良	地業・地盤改良の種類と施工法、根切工事と種類、山留、排水	
7	杭工事	概要、杭の種類・工法	既製杭・打ち込み作業、場所打ちコンクリート杭	
8	コンクリート工事	概要、種類と品質	環境に対する耐久性、耐熱性と耐火性、コンクリートの種類、混和材・コンクリート強度	
9		運搬と打込み	コンクリートの運搬、打込みの作業、仕上がり	
10	型枠工事	概要、材料、加工、組立、取外し	堰板の種類、支保工、検査、存置期間、支柱の盛替え	
11	鉄筋工事	概要・材料・加工	鉄筋の種類、切断、曲げ加工、定着と継手	
12		配筋・組立	配筋の規則、かぶり厚さ、各部位の配筋、圧接	
13	鉄骨工事	概要、材料、工作一般	形鋼、接合の種類、作業工程・工場作業、施工計画、建方、アソールト	
14		接合	ボルト、高力ボルト、溶接の種類、溶接の有害な欠陥、検査	
15	まとめ			
後 期（2 時限）				
週		教程	教程内容	
1	屋根・防水工事	概要、材料、施工法	アスファルト、シート、塗膜防水、シーリング	
2	補強コンクリートブロック、石工事	概要、材料、施工法	空洞コンクリートブロック、鉄筋の定着、配筋、耐力壁、ALC、内外装及び湿式、乾式工法等	
3	タイル工事	概要、目地、試験	材料、施工法、伸縮目地、誘発目地、施工後の確認と試験	
4	金属工事	概要	軽量鉄骨下地、アルミニウム等	
5	左官工事	概要、塗下地	モルタル塗り、セルフヘリング材塗り等、コンクリート、ALC、ラス、木ずり等	
6	建具工事	概要、鋼製建具	建具の分類と製造過程、工法、アルミサッシ・スチールサッシ重量・軽量サッシ、自動ドア	
7	カーテンウォール工事	概要	製造過程、製作	
8	塗装工事	概要、材料と施工法	素地こしらえ、錆止め、材料、調合ペイント等	
9	内装工事	概要、床、壁	材料、施工法、ビニールシート、タイル等、せっこうボード	
10	ユニット工事	概要	フリーアクセスフロアー、可動間仕切り等	
11	断熱工事	概要、材料、施工法	ロックウール、グラスウール	
12	排水工事	概要	材料、排水桝等	
13	設備工事	概要、設備	電気、給排水衛生、空調、昇降機	
14	外構工事	概要	植栽等	
15	まとめ			

専門科目	講義	建築積算	2 学年	前・後期
目的・目標 (指標)		<p>目的：積算全般の概念や建設業における積算業務の役割を把握し、「建築数量積算基準・同解説」に基づいて、各工事の必要な数量を実際に拾うことができるようになる。更に積算士補の資格において 80%以上の合格率を目指す。</p> <p>前期目標：建築数量積算の基本である数量拾いの計算ルールを理解したうえで、計画数量（仮設・土工事）と設計数量（仕上工事）の通則を習得することができる。</p> <p>後期目標：実際の設計図の演習問題で数量算出を習得し、躯体（RC 造、鉄骨造）を中心に数量を拾うことができるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		建築生産の分野に長く携わられ、業界の動向に加え当該分野の学問的知識も深く、的確な指導力を持った講師である。		
<b>指 導 内 容</b>				
前 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	積算概論(1)	積算とは何か積算の種類、建築生産プロセスの概要		
2	積算概論(2)	入札、積算業務の概要、設計図書とは、		
3	積算概論(3)	工事費の構成、建築コストにおける数量と単価、内訳書		
4	建築数量積算基準総則	積算する為の建築数量の計測・計算の方法		
5	仮設工事の積算	仮設工事の種類、通則、計測・計算の基準解説		
6	仮設工事の積算演習	仮設工事演習及び同解説		
7	土工事の積算	土工事の種類、通則、計測・計算の基準解説		
8	土工事の積算演習(1)	土工事演習		
9	土工事の積算演習(2)	土工事演習同解説		
10	内部仕上の積算	内部仕上げの種類、通則、計測・計算の基準解説		
11	内部仕上の積算演習(1)	内部仕上げ演習		
12	内部仕上の積算演習(2)	内部仕上げ演習同解説		
13	外部仕上の積算	外部仕上げの種類、通則、計測・計算の基準解説		
14	外部仕上の積算演習(1)	外部仕上げ演習		
15	外部仕上の積算演習(2)	外部仕上げ演習同解説		
後 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	コンクリート・型枠の積算	コンクリート・型枠工事の種類、通則、計測・計算の基準解説		
2	鉄筋の積算	鉄筋工事の種類、通則、計測・計算の基準解説		
3	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(1)	コンクリート工事等の種類、通則、計測・計算の基準解説		
4	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(2)	コンクリート・型枠・鉄筋工事(基礎)①演習		
5	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(3)	コンクリート・型枠・鉄筋工事(基礎)②演習同解説		
6	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(4)	コンクリート・型枠・鉄筋工事(柱)演習同解説		
7	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(5)	コンクリート・型枠・鉄筋工事(梁)①演習同解説		
8	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(6)	コンクリート・型枠・鉄筋工事(梁)②演習同解説		
9	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(7)	コンクリート・型枠・鉄筋工事(床)①演習同解説		
10	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(8)	コンクリート・型枠・鉄筋工事(床)②演習同解説		
11	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(9)	コンクリート・型枠・鉄筋工事(壁)①演習同解説		
12	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(10)	コンクリート・型枠・鉄筋工事(壁)②演習同解説		
13	鉄骨工事の積算	鉄骨工事の種類、通則、計測・計算の基準解説		
14	鉄骨工事の積算 演習・解説	鉄骨工事演習・解説		
15	内訳書の書き方	工事別標内訳標準書式・部分別内訳標準書式		

専門科目	演習	建築透視図	1 学年	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：建築物の立体形状を正しく知覚する感覚を身に付け、立体を平面状に描く技術や、建築の立体表現を習得する。また建築と色彩の関係や表現技法と感覚的な関連を実際の着色演習を通じ表現する。</p> <p>後期目標：進級課題の透視図表現が全員できるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（3 時限）				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス・成角透視足線法(1)	ガイダンス、寄棟二階建て住宅の外観パース 作図 (1)		
2	成角透視足線法(2)	寄棟二階建て住宅の外観パース 作図 (2)		
3	成角透視足線法(3)	寄棟二階建て住宅の外観パース 作図 (3)		
4	内観透視図作図演習(1)	進級課題内観パース 基本設定		
5	内観透視図作図演習(2)	進級課題内観パース 作図 (1)		
6	内観透視図作図演習(3)	進級課題内観パース 作図 (2)		
7	内観透視図作図演習(4)	進級課題内観パース 書き起こし・添景		
8	内観透視図作図演習(5)	進級課題内観パース パステル、色鉛筆による着色		
9	外観透視図作図演習(1)	進級課題外観パース 作図 (1)		
10	外観透視図作図演習(2)	進級課題外観パース 作図 (2)		
11	外観透視図作図演習(3)	進級課題外観パース 書き起こし・添景		
12	外観透視図作図演習(4)	進級課題外観パース パステル、色鉛筆による着色 (1)		
13	外観透視図作図演習(5)	進級課題外観パース パステル、色鉛筆による着色 (2)		
14	着色演習	着色による立体表現演習		
15	まとめ	まとめ		

専門科目	演習	建築計画演習	1 学年	前期
目的・目標 (指標)	<p>目的：建築計画の視点と枠組みを整理し、時代の変化に則した計画の意味や役割、そして方向性を理解する。</p> <p>前期目標：建築計画の基本的な知識の習得を目指し、生活様式の理解や設計における表現技法を習得する。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築士事務所を主宰運営しながら、指導経験も豊富で木造建築の分野に造詣が深く、実習指導において適した講師である。</p>			
指 導 内 容				
前 期 (3 時限)				
週	教程	教程内容		
1	建築計画の基本(1)	住居様式と住宅の変化、住まいの歴史		
2	建築計画の基本(2)	気候風土と地域性		
3	建築計画の基本(3)	ライフスタイルと社会の変化		
4	建築計画の基本(4)	ライフステージと家族・非家族		
5	建築計画のプロセスと方法(1)	計画条件と調査分析手法		
6	建築計画のプロセスと方法(2)	調査の実際と基本計画		
7	住まいの計画(1)	生活行為と空間・時間		
8	住まいの計画(2)	行為場面と単位空間・人体寸法と寸法体系		
9	住まいの計画(3)	動線とゾーニング・高齢者・障害者への配慮		
10	住まいの計画(4)	採光・通風・断熱・音		
11	住まいの計画(5)	屋根と階段・開口と水回り		
12	住まいの計画(6)	外構計画と植栽		
13	設計の基礎と建築計画(1)	計画演習課題(1) 住宅の計画(パブリック空間)		
14	設計の基礎と建築計画(2)	計画演習課題(2) 住宅の計画(パブリック空間)		
15	設計の基礎と建築計画(3)	計画演習課題(3) 住宅の計画(プライベート空間)		
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	演習	CAD演習	1学年	前・後期
目的・目標（指標）	<p>目的：製図及びデザイン支援の道具として実務で活用できるスキルを理解する。  前期目標：CADの基本操作を身に付け、必要とされる技術が習得でき、課題への応用ができるようになる。  後期目標：CAD操作に加え、CGによる画像編集能力を習得でき、進級課題における完成度の拡充が図れるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>該当関連分野について講師経験が豊富であり、業界の事情にも造詣が深く、演習内容についても的確な指示・指導ができる適正な講師である。</p>			
指 導 内 容				
前 期 （2時限）				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス	コンピュータ・CADの概要	コンピュータ基礎	
2	コンピュータ基礎	コンピュータ・リテラシー	コンピュータシステム、技術要素	
3		ワープロ「Word」演習	文字の入力・編集、レイアウト、文字の装飾、図の作図、画像の挿入	
4		表計算「Excel」演習(1)	データ入力、関数式	
5		表計算「Excel」演習(2)	グラフの作成、Wordデータの貼り付け	
6	AutoCAD 基本	ガイダンス	インストール、概要説明	
7	AutoCAD 基本	基本操作演習(1)	基本コマンド練習(1)	
8		基本操作演習(2)	基本コマンド練習(2)	
9		基本操作演習(3)	基本コマンド練習(3)	
10		基本操作演習(4)	基本コマンド練習(4)	
11	AutoCAD 応用	応用操作演習(1)	建築図面の作成(1)	
12		応用操作演習(2)	建築図面の作成(2)	
13		応用操作演習(3)	建築図面の作成(3)	
14		応用操作演習(4)	建築図面の作成(4)	
15	まとめ			
後 期 （3時限）				
週	教程	教程内容		
1	AutoCAD 発展	図面のレイアウト(1)	モデル空間・ペーパー空間の活用(1)	
2		図面のレイアウト(2)	モデル空間・ペーパー空間の活用(2)	
3		図面のレイアウト(3)	モデル空間・ペーパー空間の応用(3)	
4		図面のレイアウト(4)	モデル空間・ペーパー空間の活用(4)	
5		図面のレイアウト(5)	モデル空間・ペーパー空間の応用(5)	
6		図面のレイアウト(6)	モデル空間・ペーパー空間の応用(6)	
7		図面のレイアウト(7)	モデル空間・ペーパー空間の活用(7)	
8		図面のレイアウト(8)	モデル空間・ペーパー空間の応用(8)	
9	AutoCAD 実践	応用作図演習(1)	設計図書の作成(1)	
10		応用作図演習(2)	設計図書の作成(2)	
11		応用作図演習(3)	設計図書の作成(3)	
12		応用作図演習(4)	設計図書の作成(4)	
13		応用作図演習(5)	設計図書の作成(5)	
14		応用作図演習(6)	設計図書の作成(6)	
15	まとめ			

専門科目	演習	B I M演習	2 学年	前期
目的・目標（指標）	<p>目 的：建築業界において必要とされる様々なデジタルビジネスソリューションを理解する。BIMの理解により設計課題のデジタル的設計手法の拡充ができるようになる。</p> <p>前期目標：BIM操作の基本を理解し、設計課題に役立てることが出来るようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築意匠から現場の施工図までの設計図書作成補助を主たる業務とし、用途は住宅から総合病院まで多岐にわたる。</p>			
指 導 内 容				
前 期（3 時限）				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス、BIM リテラシー	BIMの基礎、BIM リテラシー		
2	BIM 概論	初期動作確認、概要		
3	BIM の基本操作(1)	基本操作及び演習(1)		
4	BIM の基本操作(2)	基本操作及び演習(2)		
5	BIM の基本操作(3)	基本操作及び演習(3)		
6	BIM の基本操作(4)	基本操作及び演習(4)		
7	BIM の基本操作(5)	基本操作及び演習(5)		
8	BIM の基本操作(6)	基本操作及び演習(6)		
9	BIM 課題演習 基礎(1)	建築モデルの構築(1)		
10	BIM 課題演習 基礎(2)	建築モデルの構築(2)		
11	BIM 課題演習 発展(1)	発展的建築モデルの構築(1)		
12	BIM 課題演習 発展(2)	発展的建築モデルの構築(2)		
13	設計課題作品演習(1)	設計課題作品の制作(1)		
14	設計課題作品演習(2)	設計課題作品の制作(2)		
15	まとめ	BIMの展望、BIMの種類など		
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	演習	プレゼンテーション	1 学年	前・後期
目的・目標 (指標)	<p>目的：各図法を基に、建築透視図の着彩の基礎から完成までを、各種表現技法を使い制作することにより、一連の着彩過程とその技法を習得する。</p> <p>前期目標：物の形状を正確に表現するための知識、空間的思考力と立体的概念を学び、投影図法、透視図法を用いながら立体を平面状に表現することができる。</p> <p>後期目標：コンピュータを使用し、家具・住宅のCGを制作できるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	設計事務所に勤務し、設計を主たる業務とし、設計指導における豊富な知識と経験を有している。			
指 導 内 容				
前 期 (3 時限)				
週	教 程		教 程 内 容	
1	ガイダンス、着色演習 落水荘(1)		ガイダンス、着彩技法の演習、落水荘着彩(1)	
2	着色演習 落水荘(2)		落水荘着彩(2)	
3	透視図法原理	足線法基本原理	基礎演習・空間の立体的把握	
4	平行透視足線法 作図(1)		住宅内観作図(1) 基本設定	
5	作図(2)		住宅内観作図(2)	
6	作図(3)		住宅内観作図(3)	
7	成角透視足線法 作図(1)		住宅外観作図(1) 基本設計	
8	作図(2)		住宅外観作図(2)	
9	作図(3)		住宅外観作図(3)	
10	作図(4)		住宅外観作図(4) 添景作図	
11	住宅外観パース	着色演習(1)	住宅外観着彩(1) 転写、インキング	
12	着色演習(2)		住宅外観着彩(2) パステル、色鉛筆着彩	
13	色鉛筆・パステル着彩(1)		内観パース着彩(1)	
14	色鉛筆・パステル着彩(2)		内観パース着彩(2)	
15	アクソノメトリック図法・グリッド法		等角投影図・斜投影図・グリッド法、45度法説明、演習課題	
後 期 (3 時限)				
週	教 程		教 程 内 容	
1	ガイダンス		プレゼン技法及びツールの紹介、デジタルプレゼンテーションの実例紹介	
2	画像処理ソフトによる画像編集(1)		画像補正、修正、画像の切り抜き	
3	画像処理ソフトによる画像編集(2)		応用データ作成	
4	画像処理ソフトによる画像編集(3)		スタディ模型の編集	
5	基礎	平面図の表現(1)	レイヤー効果	
6	平面図の表現(2)		着色、テキストチャ、画像の合成	
7	立面図の表現(1)		レイヤー効果	
8	立面図の表現(2)		着色、テキストチャ、画像の合成	
9	応用	立体プレゼンテーション(1)	建築・模型写真の撮影・編集技法(1)	
10	立体プレゼンテーション(2)		建築・模型写真の撮影・編集技法(2)	
11	立体プレゼンテーション(3)		建築・模型写真の撮影・編集技法(3)	
12	立体プレゼンテーション(4)		建築・模型写真の撮影・編集技法(4)	
13	デジタルプレゼンテーション(1)		ポートフォリオ作成(1)	
14	デジタルプレゼンテーション(2)		ポートフォリオ作成(2)	
15	まとめ		まとめ	

専門科目	演習	プレゼンテーション	2 学年	前・後期
目的・目標（指標）	<p>目 的：1 年次に学習した立体の概念やコンピュータによる作図の基本技術をさらに発展させ、プレゼンテーションの技術及び表現力を向上する。</p> <p>前期目標：Illustrator の操作基本を理解し、自身の作品をプレゼンテーションボードとして表現出来るようになる</p> <p>後期目標：各種表現方法を用いて、進級課題に生かせるプレゼンテーションが出来るようになる</p>			
実務家教員の実務経験	当該分野の演習関連項目に造詣が深く、課題指導においても、適切な授業運営を行える教授法を持った講師である。			
指 導 内 容				
前 期（3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	ガイダンス		プレゼンテーションについて 課題説明	
2	基礎	演習(1)	表現技法(1)	
3		演習(2)	表現技法(2)	
4		演習(3)	表現技法(3)	
5	応用	演習(1)	2次元プレゼンテーション(1)	
6		演習(2)	2次元プレゼンテーション(2)	
7		演習(3)	2次元プレゼンテーション(3)	
8	ポートフォリオ	演習(1)	課題内容説明・構成検討	
9		演習(2)	用紙設定・レイアウト	
10		演習(3)	素材作成	
11	プレゼンテーションボード	演習(1)	課題説明・用紙設定	
12		演習(2)	構成検討	
13		演習(3)	図面・素材の検討	
14		演習(4)	全体レイアウト	
15	まとめ		プレゼンテーション、まとめ・講評	
後 期（3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	ガイダンス		課題説明	
2	基礎	演習(1)	表現技法(1)	
3		演習(2)	表現技法(2)	
4		演習(3)	表現技法(3)	
5		演習(4)	表現技法(4)	
6		演習(5)	表現技法(5)	
7		演習(6)	表現技法(6)	
8		演習(7)	発表・講評	
9	応用	演習(1)	進級課題プレゼンテーション(1)	
10		演習(2)	進級課題プレゼンテーション(2)	
11		演習(3)	進級課題プレゼンテーション(3)	
12		演習(4)	進級課題プレゼンテーション(4)	
13		演習(5)	進級課題プレゼンテーション(5)	
14		演習(6)	進級課題プレゼンテーション(6)	
15	まとめ		まとめ・講評	

専門科目	講義	2級建築施工管理	2学年	後期
目的・目標（指標）	<p>目的： これまでに学んできた建築計画・法規・構造・施工に加えて、2級建築施工管理技術検定試験の問題を通して、施工管理技術者としての役割と業務内容を習得して、2級施工管理技術検定試験の学科試験合格を目指す。</p> <p>後期目標： 2級施工管理技術検定試験の過去の問題と実際の施工管理業務から、施工管理技術者の理解を深めることで、学科試験に対応できるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	建築・内装施工会社に勤務し、施工管理を主たる業務とし、建築施工における豊富な知識と経験を有している。			
指 導 内 容				
前 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（3時限）				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス	ガイダンス、建設業の特殊性・請負業とは		
2	法規(1)	建築基準法、用語の定義・手続き		
3	法規(2)	建設業法、建設業の種類・特定建設業・一般建設業		
4	法規(3)	労働基準法、労働契約		
5	品質管理	品質検査と試験		
6	工程管理	工程管理の手順、実働と暦日、工程表、各種届出・材料の保管		
7	安全管理	労働安全衛生法、安全衛生管理体制		
8	環境管理	建設副産物、廃棄物処理法、資源有効利用促進法		
9	躯体施工(1)	土工事、根切り工事・床付けの乱れ・凍結・地盤調査		
10	躯体施工(2)	山留壁工事、各山留壁の特徴の比較		
11	躯体施工(3)	山留支保工工事、各山留支保工の特徴と比較		
12	躯体施工(4)	既製杭、各種杭の施工方法		
13	躯体施工(5)	現場造成杭、各種杭の施工方法		
14	躯体施工(6)	鉄骨工事、建方・高力ボルト、加工・組立て		
15	躯体施工(7)	鉄骨工事、溶接・塗装・耐火被覆		

実習科目	実習	設計製図	1 学年	前・後期
目的・目標 (指標)	<p>目的：実習作品の制作を通して、製図通則、建築の計画・設計の考え方、建築の実務との関わり方等について理解する。</p> <p>前期目標：建築の基本的考えかたや立体としてのとらえ方を学び、小住宅設計ではコンセプトの考え方や空間構成ができるようになる。</p> <p>後期目標：手描き・CAD・CG 共に設計技能を修得し、木造の構造を理解した上で進級課題となる 2 階建住宅の意匠と構造の計画ができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築士事務所を主宰運営しながら、指導経験も豊富で木造建築の分野に造詣が深く、実習指導において適した講師である。</p>			
<b>指 導 内 容</b>				
<b>前 期 (9 時限)</b>				
週	教程	教程内容		
1	設計製図基礎(1)	製図道具の説明・線の種類と描き方・線の練習・各種壁構造		
2	設計製図基礎(2)	木造住宅写図 平面図写図 -S=1/100		
3	設計製図基礎(3)	木造住宅写図 断面図写図 -S=1/100		
4	設計製図基礎(4)	木造住宅写図 立面図写図 -S=1/100		
5	建築模型制作(1)	模型の役割と制作方法・見学会		
6	建築模型制作(2)	模型制作演習 一空間構成		
7	小住宅の設計(1)	敷地調査・見学会		
8	小住宅の設計(2)	エスキース(1) 一基本計画		
9	小住宅の設計(3)	エスキース(2) 一平面計画		
10	小住宅の設計(4)	エスキース(3) 一断面計画 立面計画 構造計画		
11	小住宅の設計(5)	模型制作		
12	小住宅の設計(6)	プレゼンテーション・まとめ		
13	木造住宅写図(1)	平面図写図 -S=1/50		
14	木造住宅写図(2)	矩計図写図 -S=1/20		
15	まとめ	総合提出・採点・作品発表会		
<b>後 期 (12 時限)</b>				
週	教程	教程内容		
1	進級課題概要説明	進級課題基本事項の確認		
2	進級課題エスキース(1)	敷地調査・類似建物調査 配置計画		
3	進級課題エスキース(2)	平面計画		
4	進級課題エスキース(3)	断面計画 立面計画		
5	進級課題基本設計(1)	配置図兼平面図 -S=1/100		
6	進級課題基本設計(2)	平面図 -S=1/100		
7	進級課題基本設計(3)	断面図 -S=1/100		
8	進級課題基本設計(4)	立面図 -S=1/100		
9	進級課題基本設計(5)	主旨・概要・まとめ		
10	進級課題実施設計(1)	配置図兼 1 階平面図 -S=1/50		
11	進級課題実施設計(2)	2 階平面図 -S=1/50		
12	進級課題実施設計(3)	断面図 -S=1/50		
13	進級課題実施設計(4)	立面図 -S=1/50		
14	進級課題実施設計(5)	プレゼンテーション		
15	まとめ	総合提出・採点・作品発表会		

実習科目	実習	設計製図	2 学年	前・後期
目的・目標 (指標)	<p>目的：実習課題を通して、鉄筋コンクリート(RC)造の構造計画の基本と意匠計画の基本を理解し、加えて学生コンペに全員が出品する。</p> <p>前期目標：RC造建物の写図で基本を学び、構造的な基本を理解した上で、RC造集合住宅の設計ができるようになる。</p> <p>後期目標：公共施設の設計を行い、進級課題としての展示施設基本計画が理解できる。進級課題は、周辺環境を意識した公共建築物の設計ができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	建築設計業務に携わり、設計管理業務を主たる業務とし、設計指導における豊富な知識と経験を有している。			
指 導 内 容				
前 期 (12 時限)				
週	教程	教程内容		
1	鉄筋コンクリート造写図(1)	鉄筋コンクリート造写図(1) ーラーメン構造		
2	鉄筋コンクリート造写図(2)	鉄筋コンクリート造写図(2) ー壁式構造		
3	集合住宅設計(1)	敷地調査・建物見学		
4	集合住宅設計(2)	エスキース(1) ー配置平面計画 断面計画		
5	集合住宅設計(3)	エスキース(2) ー立面計画 構造計画		
6	集合住宅設計(4)	配置図兼1階平面図 各階平面図		
7	集合住宅設計(5)	断面図 立面図		
8	集合住宅設計(6)	プレゼンテーション・模型作成		
9	総合提出 作品発表会	総合提出・採点・作品発表会		
10	設計コンペ 課題制作(1)	コンペ課題作成(1) エスキース		
11	設計コンペ 課題制作(2)	コンペ課題作成(2) 配置図兼1階平面図 各階平面図		
12	設計コンペ 課題制作(3)	コンペ課題作成(3) 断面図 立面図		
13	設計コンペ 課題制作(4)	コンペ課題作成(4) 模型作成 プレゼンテーションボード 総合提出		
14	公共施設設計の基礎(1)	平面計画の要点・周辺環境との調和・動線計画・エスキース		
15	公共施設設計の基礎(2)	平面図・断面図・総合提出・採点		
後 期 (12 時限)				
週	教程	教程内容		
1	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(1)	敷地見学・類似建物見学		
2	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(2)	敷地模型作成		
3	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(3)	敷地調査まとめ・グループワーク		
4	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(4)	エスキース(1) ー配置平面計画		
5	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(5)	エスキース(2) ー断面計画 立面計画		
6	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(6)	エスキース(3) ー立面計画 構造計画		
7	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(7)	配置図兼1階平面図		
8	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(8)	各階平面図・屋根伏図		
9	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(9)	断面図		
10	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(10)	立面図		
11	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(11)	模型作成		
12	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(12)	プレゼンテーションボード		
13	進級課題 公園の中に建つ公共建築物設計(13)	事前提出・全課題チェック		
14	総合提出	総合提出・採点		
15	作品発表会	作品発表会		

実習科目	実技	総合建設実習	2 学年	後期
目的・目標（指標）	<p>目的：教室内において実習の出来ない「測量・構造」の基礎技術を中心にした「体験学習」を行ない、実務的な経験する。</p> <p>後期目標：測量実習では、建物の高さや位置の基準の概念が理解できる。構造実習では、RC 造における鉄筋の役割、鉄筋圧接継手の施工法、そして品質管理の重要性が理解できる。</p>			
実務家教員の実務経験	建設業の現場体験をベースとして、測量・鉄筋の基礎技術を指導する経験を有する。			
指 導 内 容				
前 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（60 時限）				
週	教程	教程内容		
1	測量学科	測量概要、基本原理、危険予知活動		
2	測量実習	水準測量(レベル)、三角測量（トランシット）		
3	構造学科	鉄筋の種類・記号の意味・仕様、危険予知活動		
4	構造実習	配筋、結束、スラブ筋結束		
5	研究レポート	研究レポート作成		
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	講義	設計実務	3 学年 設計専攻	前期
目的・目標 (指標)	<p>目 的：建築界全体のしくみ、取り巻く社会環境を理解する。  前期目標：種々の業務を踏まえながら、実務者としての心構えを固め、その中での設計者の立場を理解し、自己の目標を明確に定められるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築士事務所を長年主宰運営され建築意匠分野の知識が豊富で、加えて建築についての歴史的背景にも造詣が深く当該科目の指導に適した講師である。</p>			
指 導 内 容				
前 期 (1 時限)				
週	教程	教程内容		
1	設計実務序 就職意識診断・アンケート	設計実務の講義の目的 OJT について		
2	診断結果考察 就職活動アドバイス	自己の適正を探るー認識の度合いを自覚		
3	実務における基本的考え方	社会との係わりー原点 問題解決の進め方		
4	建築設計を取り巻く社会環境(1)	建設業の産業特性 建築界の構成 建設業界の特性		
5	建築設計を取り巻く社会環境(2)	経営とは 建築工事と景気動向		
6	建築士(設計)事務所に求められるもの	社会的責任 経営基盤		
7	組織としての建築士事務所(1)	既成事務所の構成 業務組織と人材ー人材の条件・リーダー		
8	組織としての建築士事務所(2)	プロジェクトチームの構成ーモチベーションの要因		
9	建築士事務所の業務の流れ	モチベーションの要因		
10	建築士事務所の設計業務	基本設計(企画・計画)の進め方 実施設計の進め方		
11	建築士事務所の監理・その他の業務	工事監理の重要性 業務の構造スパイラル		
12	建築士事務所の経営監理	業務報酬 原価管理		
13	今後の課題と展望(1)	業務領域の拡大ー企画・情報収集・リフォーム		
14	今後の課題と展望(2)	社会の期待に応えてー技術者の責任・コスト・環境		
15	まとめ	建物のライフサイクル		
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	講義	設計原論	3 学年 設計専攻	前期
目的・目標 (指標)	<p>目的：建築の形態・空間のあり方を探り、エスキースの方法や具体的な建築のつくり方を知る。</p> <p>前期目標：設計のための基礎知識を身につけ、建築全体を理解できるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築士事務所を長年主宰運営され建築意匠分野の知識が豊富で、加えて建築についての歴史的背景にも造詣が深く当該科目の指導に適した講師である。</p>			
指 導 内 容				
前 期 (1 時限)				
週	教程	教程内容		
1	建築設計の理論と実践	建築設計の5段階		
2	形・空間・建築	かたちを考えたときの基本、空間のつくり方		
3	建物の構成要素(1)	平面をつくるための方法—平面の材料を集める		
4	建物の構成要素(2)	断面をつくるための方法—部分と全体の高さを決める		
5	建物の構成要素(3)	立面をつくるための方法—平面と断面の組み合わせ		
6	形の操作	外観を整える方法—平立断から箱をつくる アーケイション・開口部・屋根		
7	シーケンス・体験	空間と空間の結びつき方—建物の中を歩いてみる		
8	機能・コンセプト	空間の持っている特長—止まって考える		
9	IT・設計ツール・社会	外部空間をつくる方法		
10	実際の設計と分析	内部空間をつくる方法		
11	作品分析	作品分析：スミス邸 ダグラス邸		
12	分析・設計(1)	分析 条件の整理・テーマ設定		
13	分析・設計(2)	エスキース・設計		
14	分析・設計(3)	分析・設計まとめ		
15	まとめ	設計作法とは		
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	講義	建築史特論	3学年 設計専攻	前期
目的・目標（指標）	<p>目的：近代（産業革命以降）から現代に至る建築の流れを全体的・多角的な視点から学ぶ。</p> <p>前期目標：豊富な事例作品と照会させることにより、その流れをより現実的なレベル認識できるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築士事務所を長年主宰運営され建築意匠分野の知識が豊富で、加えて建築についての歴史的背景にも造詣が深く当該科目の指導に適した講師である。</p>			
指 導 内 容				
前 期（1時限）				
週	教程	教程内容		
1	「建築史」について	建築と歴史の関係 建築史の意義		
2	産業革命以降	産業革命により用いられることになった材料 建築用途		
3	アール・ヌーヴォー	アーツ&クラフツ、アール・ヌーヴォー、ガウディほか		
4	第一次世界大戦前後の潮流	表現主義、バウハウス、デ・ステイル、ロシア構成主義		
5	巨匠：初期	フランク・ロイト・ライト、ル・コルビュジエ、ミース・ファン・デル・ローエ		
6	日本建築：～1920年代	伊藤忠太、佐野利器、分離派、コントールほか		
7	インターナショナル・スタイル/地域主義の台頭	ミース、ラー、シャロワほか / アアルト、ファソス・ムほか		
8	巨匠：大戦間	フランク・ロイト・ライト、ル・コルビュジエ、ミース・ファン・デル・ローエ		
9	都市計画：～第二次世界大戦	田園都市、同潤会、輝く都市ほか、		
10	戦後：アメリカ、ヨーロッパ	戦後のアメリカとヨーロッパ		
11	巨匠：戦後 / 巨匠の周辺	フランク・ロイト・ライト、ル・コルビュジエ、ミース・ファン・デル・ローエ/カンほか		
12	戦後：日本	丹下と研究室、川添とメトロリズム		
13	モダニズムを超えて / 非西欧地域での展開	ヴェンチュリ、マイヤー、ピアノほか / ファジイ、コリア、ジューンほか		
14	都市計画：戦後	ニュータウン、公園、街づくり		
15	まとめ	現代的状況の行方ー現在の建築の流れ・今後のキーワード		
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	演習	設計演習	3 学年 設計専攻	前・後期
目的・目標（指標）	<p>目的：1級・2級建築士製図課題内容を理解する。</p> <p>前期目標：1級建築士の製図課題を通じて、公共施設における基本設計までの流れができるようになる。</p> <p>後期目標：2級建築士の製図課題に対応できる計画力・作図能力を身に付け、建築士製図試験に対応できるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築設計業を主宰運営され、当該演習科目での幅広い知識と教養をもって、高い指導力と授業運営能力を発揮できる講師である。</p>			
指 導 内 容				
前 期（3 時限）				
週	教程	教程内容		
1	1 級建築士製図対策概論	計画上のポイント説明 実例解説		
2	1 級建築士製図 第1 課題(1)	スパン割り、法規制、階段、便所		
3	1 級建築士製図 第1 課題(2)	エスキース(1) ゾーニング・配置計画		
4	1 級建築士製図 第1 課題(3)	エスキース(2) 平面計画		
5	1 級建築士製図 第1 課題(4)	エスキース(3) 断面計画・構造計画		
6	1 級建築士製図 第1 課題(6)	作図(1)		
7	1 級建築士製図 第1 課題(7)	作図(2)		
8	1 級建築士製図 第1 課題(8)	作図(3)・提出		
9	1 級建築士製図 第2 課題(1)	エスキース(1) ゾーニング・配置計画		
10	1 級建築士製図 第2 課題(2)	エスキース(2) 平面計画		
11	1 級建築士製図 第2 課題(3)	エスキース(3) 断面計画・構造計画		
12	1 級建築士製図 第2 課題(4)	作図(1)		
13	1 級建築士製図 第2 課題(5)	作図(2)		
14	1 級建築士製図 第2 課題(6)	作図(3)・提出		
15	まとめ	講評		
後 期（3 時限）				
週	教程	教程内容		
1	2 級建築士製図対策概論	計画上のポイントの説明		
2	2 級建築士製図写図課題(1)	作図(1)－配置図兼1 階平面図		
3	2 級建築士製図写図課題(2)	作図(2)－2 階平面図・立面図		
4	2 級建築士製図写図課題(3)	作図(3)－2 階床伏図兼1 階小屋伏図		
5	2 級建築士製図写図課題(4)	作図(4)－矩計図		
6	2 級建築士製図写図課題(5)	作図(7)－面積表・仕上表・計画の要点 提出		
7	エスキース方法解説	実例解説		
8	2 級建築士製図製図課題(1)	エスキース(1)－ゾーニング・配置計画・平面計画		
9	2 級建築士製図製図課題(2)	エスキース(2)－構造計画のポイント・構造計画		
10	2 級建築士製図製図課題(3)	作図(1)－配置図兼1 階平面図		
11	2 級建築士製図製図課題(4)	作図(2)－2 階平面図・立面図		
12	2 級建築士製図製図課題(5)	作図(3)－2 階床伏図兼1 階小屋伏図		
13	2 級建築士製図製図課題(6)	作図(4)－矩計図		
14	2 級建築士製図製図課題(7)	作図(5)－面積表・仕上表・計画の要点 提出		
15	まとめ	講評		

専門科目	演習	構造演習	3 学年 設計専攻	後期
目的・目標（指標）	<p>目 的：鉄筋コンクリート造、鉄骨造の構造図の写図を通じて、一般的な構造図を理解する 後期目標：鉄骨や鉄筋の細部の納まりを理解することができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>構造設計事務所に勤務し、構造設計を主たる業務とし、構造関連の指導における知識と経験を有している。</p>			
指 導 内 容				
前 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（3 時限）				
週	教程	教程内容		
1	構造図概要	構造図概要・描き方		
2	鉄筋コンクリート店舗・共同住宅写図(1)	地下1階床伏図・基礎伏図・1階床伏図・2階床伏図(1)		
3	鉄筋コンクリート店舗・共同住宅写図(2)	地下1階床伏図・基礎伏図・1階床伏図・2階床伏図(2)		
4	鉄筋コンクリート店舗・共同住宅写図(3)	地下1階床伏図・基礎伏図・1階床伏図・2階床伏図(3)		
5	鉄筋コンクリート店舗・共同住宅写図(4)	桁行方向軸組図		
6	鉄筋コンクリート店舗・共同住宅写図(5)	張間方向軸組図		
7	鉄筋コンクリート店舗・共同住宅写図(6)	柱リスト・大梁リスト(1)		
8	鉄筋コンクリート店舗・共同住宅写図(7)	柱リスト・大梁リスト(2)		
9	鉄骨造店舗・共同住宅写図(1)	基礎・1階床伏図・2階伏図・3階伏図・R階伏図(1)		
10	鉄骨造店舗・共同住宅写図(2)	基礎・1階床伏図・2階伏図・3階伏図・R階伏図(2)		
11	鉄骨造店舗・共同住宅写図(3)	基礎・1階床伏図・2階伏図・3階伏図・R階伏図(3)		
12	鉄骨造店舗・共同住宅写図(4)	軸組図(1)		
13	鉄骨造店舗・共同住宅写図(5)	軸組図(2)		
14	鉄骨造店舗・共同住宅写図(6)	柱リスト・大梁リスト・部材リスト(1)		
15	鉄骨造店舗・共同住宅写図(7)	柱リスト・大梁リスト・部材リスト(2)		

専門科目	演習	施工演習	3 学年 設計専攻	前期
目的・目標（指標）	<p>目的：「RC 造地下 1 階地上 5 階店舗・共同住宅設計図」を基に、設計図及び施工図の写図を通して、施工プロセスや仕上材料等について学ぶ。 前期目標：設計図・構造図を基に「施工図」を作図する能力を身に付けられるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築士事務所を主宰運営され、設計監理業を主たる業務とし、当該演習科目の指導において知識が深く、的確な指導力を発揮できる講師である。</p>			
指 導 内 容				
前 期（3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	RC 造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(1)	開口詳細図(1) RC 造のアルミサッシの納まり、作図	
2	RC 造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(2)	WD 詳細図(1) 木製建具の納まり、作図	
3	RC 造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(3)	基準階平面詳細図(1) 外壁の仕上	
4	RC 造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(4)	基準階平面詳細図(2) 各種壁の構造と仕上材料	
5	RC 造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(5)	基準階平面詳細図(3) 各種開口部の納まり	
6	RC 造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(6)	基準階平面詳細図(4) 各種寸法・記号の意味	
7	RC 造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(1)	基準階躯体平面図(1) 各種開口部の躯体寸法	
8	RC 造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(2)	基準階躯体平面図(2) 作図	
9	RC 造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(3)	基準階躯体平面図(3) 各種寸法・記号の意味	
10	RC 造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(4)	基準階躯体平面図(4) 作図	
11	RC 造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(5)	基準階躯体断面図(1) 防水仕上とパラペット	
12	RC 造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(6)	基準階躯体断面図(2) 作図	
13	RC 造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(7)	基準階躯体断面図(3) 各種寸法・記号の意味	
14	RC 造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(8)	基準階躯体断面図(4) 作図	
15	まとめ		まとめ	
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	講義	専攻概論	3 学年 設計専攻	前・後期
目的・目標 (指標)	<p>目的：2級建築士(学科)の過去の資格試験で出題された問題を解きながら、国家試験のレベルを知り、知識と解答のテクニックを体得する。</p> <p>前期目標：「学科Ⅰ(建築計画)」と「学科Ⅳ(建築施工)」の問題演習を行い、理解する。</p> <p>後期目標：「学科Ⅱ(建築法規)」と「学科Ⅲ(建築構造)」の問題演習を行い、理解する。</p>			
実務家教員の実務経験	設計事務所を主宰運営し、設計監理業に加え、建築関連の執筆実績もあり、設計指導における豊富な知識と経験を有している。			
<b>指 導 内 容</b>				
前 期 (3 時限)				
週	教 程		教 程 内 容	
1	2級建築士対策	建築計画(1)	住戸計画、地域計画、学校、高齢者施設	
2	2級建築士対策	建築計画(2)	医療施設、図書館、事務所、劇場、店舗、駐車場等	
3	2級建築士対策	建築計画(3)	建築計画、各部計画、日本建築史、西洋建築史	
4	2級建築士対策	建築計画(4)	換気、温冷感、熱、結露、日照、日射、採光	
5	2級建築士対策	建築計画(5)	光、色彩、音、透過損失、音響	
6	2級建築士対策	建築計画(6)	空調設備、給排水衛生設備	
7	2級建築士対策	建築計画(7)	電気・照明設備、防災設備、省エネルギー、環境配慮	
8	2級建築士対策	建築施工(1)	施工計画、現場管理、安全管理・工事監理、材料管理・申請	
9	2級建築士対策	建築施工(2)	廃棄、地盤調査、仮設工事、土工事、基礎・地業工事	
10	2級建築士対策	建築施工(3)	鉄筋工事 鉄筋加工・組立・重ね継手、ガス圧接、定着、被厚	
11	2級建築士対策	建築施工(4)	型枠工事、コンクリート工事運搬・打込・工程・品質管理	
12	2級建築士対策	建築施工(5)	補強コンクリートブロック工事、鉄骨工事、木工事、左官工事	
13	2級建築士対策	建築施工(6)	防水・屋根工事タイル・石工事、ガラス・建具工事	
14	2級建築士対策	建築施工(7)	内装・断熱工事、塗装工事、設備工事、改修工事	
15	2級建築士対策	建築施工(8)	各種工事、用語、積算、測量、契約	
後 期 (3 時限)				
週	教 程		教 程 内 容	
1	2級建築士対策	建築法規(1)	用語の定義、面積・高さ等の算定	
2	2級建築士対策	建築法規(2)	確認申請、消防同意、完了検査、中間検査	
3	2級建築士対策	建築法規(3)	採光、階段、建築設備、構造強度、	
4	2級建築士対策	建築法規(4)	耐火建築物等、防火区画、内装制限、避難規定	
5	2級建築士対策	建築法規(5)	道路、壁面線、用途地域	
6	2級建築士対策	建築法規(6)	容積率、建蔽率、高さ制限、防火地域制	
7	2級建築士対策	建築法規(7)	関連法規	
8	2級建築士対策	建築構造(1)	力のつり合い、静定構造物の応力、ラーメンの解法	
9	2級建築士対策	建築構造(2)	断面性能・応力度、座屈、トラス解法	
10	2級建築士対策	建築構造(3)	荷重、外力、地震力、構造計画、地盤と基礎	
11	2級建築士対策	建築構造(4)	鉄筋コンクリート構造 梁・柱・構造計画	
12	2級建築士対策	建築構造(5)	鉄骨構造 接合方法・座屈・梁の設計	
13	2級建築士対策	建築構造(6)	木構造 在来軸組み構法・壁量計算・接合部・枠組壁工法	
14	2級建築士対策	建築構造(7)	建築材料 コンクリート、鋼材、木材、その他	
15	まとめ		まとめ	

実習科目	実習	設計専攻実習	3 学年 設計専攻	前・後期
目的・目標（指標）		<p>目的：建築の機能、形態から社会との関わりまでを総合的に計画・設計する。</p> <p>前期目標：金融機関紹介による住宅設計（地域密着実践教育）を通じて、施主の要望・法規制を踏まえた設計ができるようになる。</p> <p>後期目標：卒業制作として、各自の計画案を実施設計として纏める手法とプレゼンテーション技能を身に付ける。</p>		
実務家教員の実務経験		設計事務所を主宰運営し、設計監理業に加え、建築関連の執筆実績もあり、設計指導における豊富な知識と経験を有している。		
指 導 内 容				
前 期（15 時限）				
週	教程		教程内容	
1	金融機関紹介による住宅設計(1)		敷地調査・敷地法規制検討	
2	金融機関紹介による住宅設計(2)		施主ヒヤリング	
3	金融機関紹介による住宅設計(3)		エスキースーボリュームスタディ ゾーニング	
4	金融機関紹介による住宅設計(4)		エスキース(1)	
5	金融機関紹介による住宅設計(5)		エスキース(2) 施主打合せ①	
6	金融機関紹介による住宅設計(6)		エスキース(3) 施主打合せ②	
7	金融機関紹介による住宅設計(7)		作図(1)	
8	金融機関紹介による住宅設計(8)		作図(2)	
9	金融機関紹介による住宅設計(9)		プレゼンテーション	
10	金融機関紹介による住宅設計(10)		総合提出 クラス発表会	
11	金融機関紹介による住宅設計(11)		施主プレゼンテーション	
12	卒業制作(1)		エスキースチェック(1)	
13	卒業制作(2)		エスキースチェック(2)	
14	卒業制作(3)		計画概要、平面図、立面図、断面図、仕上材料の検討(1)	
15	卒業制作(4)		計画概要、平面図、立面図、断面図、仕上材料の検討(2)	
後 期（18 時限）				
週	教程		教程内容	
1	卒業制作(5)		矩計図(1)	
2	卒業制作(6)		矩計図(2)	
3	卒業制作(7)		平面詳細図(1)	
4	卒業制作(8)		平面詳細図(2)	
5	卒業制作(9)		階段詳細図(1)	
6	卒業制作(10)		階段詳細図(2)	
7	卒業制作(11)		展開図	
8	卒業制作(12)		天井伏図	
9	卒業制作(13)		建具表	
10	卒業制作(14)		雑詳細図	
11	卒業制作(15)		特記仕様書	
12	卒業制作(16)		プレゼンテーション(1)	
13	卒業制作(17)		プレゼンテーション(2)	
14	卒業制作(18)		卒業制作総合提出	
15	まとめ		卒業制作クラス内発表会・講評	

専門科目	実技	施工管理実習（内装）	3学年 設計専攻	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：実務に通ずる知識と技術を習得する。  後期目標：内装工事（床仕上げ）と内装積算を実際に体験し、「施工管理者」としての「管理方法」が理解できるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		建設業において、内装の基礎技術を有し、その教育の経験が豊富である。		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（48 時限）				
週	教程		教程内容	
1	内装工事实習(1)		割付図作成、墨出し、割付	
2	内装工事实習(2)		材料原寸カット、加工、貼付け	
3	内装工事实習(3)		内装数量積算	
4	内装工事实習(4)、研究レポート		内装積算集計、研究レポート作成	
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	講義	施工管理	3 学年 施工専攻	前期
目的・目標（指標）		<p>目的：建設業の現状を把握し、品質・原価・工程・安全管理の必要性を認識、理解をする。</p> <p>前期目標：建設における管理手法の演習を通じて施工管理の基礎ができるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期（2 時限）				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス、建築業の特殊性	ガイダンス、建設業の特殊性と現状		
2	建設業法(1)	建築業の種類、建設業の許可		
3	建設業法(2)	請負契約書、請負契約書約款		
4	建設業法(3)	技術者の資格と配置		
5	施工管理(1)	請負とは		
6	施工管理(2)	施工管理の5大要点		
7	品質管理	コンクリートの検査と試験、その他の検査と試験		
8	工程管理(1)	工程管理の用語、工程計画の手順、バーチャート工程表		
9	工程管理(2)	ネットワーク工程表		
10	安全管理(1)	労働安全衛生法、安全衛生管理体制		
11	安全管理(2)	作業主任、安全衛生教育		
12	環境管理	建設副産物		
13	躯体施工(1)	土工事、根切り		
14	躯体施工(2)	山留工事、山留壁		
15	躯体施工(3)	山留工事、山留支保工		
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	講義	施工積算	3 学年 施工専攻	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：各自で設計した設計図書からコンクリート体積、鉄筋質量、型枠面積の数量を求めることで、建築数量積算基準の RC 造躯体部分の算出法を具体的に学び、合わせて図面を読む力と RC 造の構造的仕組み及び施工法を習得する。</p> <p>後期目標：躯体工事に必要な数量を求める積算ができるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	建築数量積算基準		躯体の定義と区分 コンクリート部材	
2	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(1)	基礎部分コンクリート・型枠数量算出(1)	
3	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(2)	基礎部分コンクリート・型枠数量算出(2)	
4	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(3)	1 階部分コンクリート・型枠数量算出(1)	
5	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(4)	1 階部分コンクリート・型枠数量算出(2)	
6	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(5)	1 階部分コンクリート・型枠数量算出(3)	
7	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(6)	基礎部分鉄筋数量算出(1)	
8	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(7)	基礎部分鉄筋数量算出(2)	
9	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(8)	1 階部分鉄筋数量算出(1)	
10	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(9)	1 階部分鉄筋数量算出(2)	
11	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(10)	1 階部分鉄筋数量算出(3)	
12	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(11)	土工事 1 根切・地業・捨コンクリート数量算出(1)	
13	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(12)	土工事 2 根切・地業・捨コンクリート数量算出(2)	
14	RC 造店舗併用住宅設計新築工事	躯体数量積算(13)	土工事 3 根切・地業・捨コンクリート数量算出(3)	
15	まとめ		まとめ	

専門科目	演習	設計演習	3 学年 施工専攻	後期
目的・目標（指標）		目的：2 級建築士製図課題内容を理解する。 後期目標：2 級建築士の製図課題に対応できる計画力・作図能力を身に付け、建築士製図試験に対応できるようになる。		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	2 級建築士製図対策概論		計画上のポイントの説明	
2	2 級建築士製図写図課題(1)		作図(1)－配置図兼 1 階平面図	
3	2 級建築士製図写図課題(2)		作図(2)－2 階平面図・立面図	
4	2 級建築士製図写図課題(3)		作図(3)－2 階床伏図兼 1 階小屋伏図	
5	2 級建築士製図写図課題(4)		作図(4)－矩計図	
6	2 級建築士製図写図課題(5)		作図(5)－面積表・仕上表・計画の要点 提出	
7	エスキース方法解説		実例解説	
8	2 級建築士製図製図課題(1)		エスキース(1)－ゾーニング・配置計画・平面計画	
9	2 級建築士製図製図課題(2)		エスキース(2)－構造計画のポイント・構造計画	
10	2 級建築士製図製図課題(3)		作図(1)－配置図兼 1 階平面図	
11	2 級建築士製図製図課題(4)		作図(2)－2 階平面図・立面図	
12	2 級建築士製図製図課題(5)		作図(3)－2 階床伏図兼 1 階小屋伏図	
13	2 級建築士製図製図課題(6)		作図(4)－矩計図	
14	2 級建築士製図製図課題(7)		作図(5)－面積表・仕上表・計画の要点 提出	
15	まとめ		講評	

専門科目	演習	構造演習	3 学年 施工専攻	前期
目的・目標 (指標)		目的：鉄筋コンクリート造、鉄骨造の構造図の写図を通じて、一般的な構造図を理解する 前期目標：鉄骨や鉄筋の細部の納まりを理解することができるようになる。		
指 導 内 容				
前 期 (6 時限)				
週	教程		教程内容	
1	鉄筋コンクリート造店舗共同住宅構造図写図(1)		構造伏図(1)－基礎伏図 3階伏図 軸組図	
2	鉄筋コンクリート造店舗共同住宅構造図写図(2)		構造伏図(2)－基礎伏図 3階伏図 軸組図	
3	鉄筋コンクリート造店舗共同住宅構造図写図(3)		柱・大梁・床・壁リスト	
4	鉄筋コンクリート造店舗併用住宅設計 構造計画(1)		柱・基礎の構造計画 (1)	
5	鉄筋コンクリート造店舗併用住宅設計 構造計画(2)		柱・基礎の構造計画 (2)	
6	鉄筋コンクリート造店舗併用住宅設計 構造計画(3)		大梁・小梁の構造計画 (1)	
7	鉄筋コンクリート造店舗併用住宅設計 構造計画(4)		大梁・小梁の構造計画 (2)	
8	鉄筋コンクリート造店舗併用住宅設計 構造計画(5)		部材リスト (1)	
9	鉄筋コンクリート造店舗併用住宅設計 構造計画(6)		部材リスト (2)	
10	鉄筋コンクリート造店舗併用住宅設計 構造計画(7)		構造伏図－基礎伏図 2階床伏図	
11	鉄筋コンクリート造店舗併用住宅設計 構造計画(8)		構造伏図－R階床伏図	
12	鉄筋コンクリート造店舗併用住宅設計 構造計画(9)		軸組図	
13	鉄骨造事務所ビル構造図 写図(1)		構造伏図	
14	鉄骨造事務所ビル構造図 写図(2)		柱・梁リスト	
15	鉄骨造事務所ビル構造図 写図(3)		接合部リスト	
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	講義	専攻概論	3 学年 施工専攻	前・後期
目的・目標 (指標)	<p>目的：2級建築士(学科)の過去の資格試験で出題された問題を解きながら、国家試験のレベルを知り、知識と解答のテクニックを体得する。</p> <p>前期目標：「学科Ⅰ(建築計画)」と「学科Ⅳ(建築施工)」の問題演習を行い、理解する。</p> <p>後期目標：「学科Ⅱ(建築法規)」と「学科Ⅲ(建築構造)」の問題演習を行い、理解する。</p>			
実務家教員の実務経験	設計事務所を主宰運営し、設計監理業に加え、建築関連の執筆実績もあり、設計指導における豊富な知識と経験を有している。			
指 導 内 容				
前 期 (3 時限)				
週	教 程		教 程 内 容	
1	2級建築士対策	建築計画(1)	住戸計画、地域計画、学校、高齢者施設	
2	2級建築士対策	建築計画(2)	医療施設、図書館、事務所、劇場、店舗、駐車場等	
3	2級建築士対策	建築計画(3)	建築計画、各部計画、日本建築史、西洋建築史	
4	2級建築士対策	建築計画(4)	換気、温冷感、熱、結露、日照、日射、採光	
5	2級建築士対策	建築計画(5)	光、色彩、音、透過損失、音響	
6	2級建築士対策	建築計画(6)	空調設備、給排水衛生設備	
7	2級建築士対策	建築計画(7)	電気・照明設備、防災設備、省エネルギー、環境配慮	
8	2級建築士対策	建築施工(1)	施工計画、現場管理、安全管理・工事監理、材料管理・申請	
9	2級建築士対策	建築施工(2)	廃棄、地盤調査、仮設工事、土工事、基礎・地業工事	
10	2級建築士対策	建築施工(3)	鉄筋工事 鉄筋加工・組立・重ね継手、ガス圧接、定着、被厚	
11	2級建築士対策	建築施工(4)	型枠工事、コンクリート工事運搬・打込・工程・品質管理	
12	2級建築士対策	建築施工(5)	補強コンクリートブロック工事、鉄骨工事、木工事、左官工事	
13	2級建築士対策	建築施工(6)	防水・屋根工事タイル・石工事、ガラス・建具工事	
14	2級建築士対策	建築施工(7)	内装・断熱工事、塗装工事、設備工事、改修工事	
15	2級建築士対策	建築施工(8)	各種工事、用語、積算、測量、契約	
後 期 (3 時限)				
週	教 程		教 程 内 容	
1	2級建築士対策	建築法規(1)	用語の定義、面積・高さ等の算定	
2	2級建築士対策	建築法規(2)	確認申請、消防同意、完了検査、中間検査	
3	2級建築士対策	建築法規(3)	採光、階段、建築設備、構造強度、	
4	2級建築士対策	建築法規(4)	耐火建築物等、防火区画、内装制限、避難規定	
5	2級建築士対策	建築法規(5)	道路、壁面線、用途地域	
6	2級建築士対策	建築法規(6)	容積率、建蔽率、高さ制限、防火地域制	
7	2級建築士対策	建築法規(7)	関連法規	
8	2級建築士対策	建築構造(1)	力のつり合い、静定構造物の応力、ラーメンの解法	
9	2級建築士対策	建築構造(2)	断面性能・応力度、座屈、トラス解法	
10	2級建築士対策	建築構造(3)	荷重、外力、地震力、構造計画、地盤と基礎	
11	2級建築士対策	建築構造(4)	鉄筋コンクリート構造 梁・柱・構造計画	
12	2級建築士対策	建築構造(5)	鉄骨構造 接合方法・座屈・梁の設計	
13	2級建築士対策	建築構造(6)	木構造 在来軸組み構法・壁量計算・接合部・枠組壁工法	
14	2級建築士対策	建築構造(7)	建築材料 コンクリート、鋼材、木材、その他	
15	まとめ		まとめ	

実習科目	実習	施工専攻実習	3 学年 施工専攻	前・後期
目的・目標（指標）	<p>目的：施工プロセスや仕上げ材料等について理解するとともに施工図作成方法、施工管理について理解をする。</p> <p>前期目標：設計図・施工図及び施工計画図の表現方法が理解できるようになる。</p> <p>後期目標：各自で設計した RC 造店舗・共同住宅を通じて、施工図及び施工計画図が描けるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	建築設計事務所を主宰運営され、建築設計全般の知識が豊富であり、さらに建築生産関連の授業進行において的確な指導ができる講師である。			
<b>指 導 内 容</b>				
前 期（16 時限）				
週	教程		教程内容	
1	RC 造専用住宅 設計図(1)		エスキース(1)	
2	RC 造専用住宅 設計図(2)		エスキース(2)	
3	RC 造専用住宅 設計図(3)		平面図	
4	RC 造専用住宅 設計図(4)		断面図・立面図	
5	RC 造店舗・共同住宅 設計図 写図演習(1)		開口詳細図	
6	RC 造店舗・共同住宅 設計図 写図演習(2)		F-1 詳細図	
7	RC 造店舗・共同住宅 設計図 写図演習(3)		3 階平面詳細図	
8	RC 造店舗・共同住宅 設計図 写図演習(4)		矩計詳細図	
9	RC 造店舗・共同住宅 設計図 写図演習(5)		階段詳細図	
10	RC 造店舗・共同住宅 施工図 作図演習(1)		基礎躯体平面図	
11	RC 造店舗・共同住宅 施工図 作図演習(2)		基礎躯体断面図	
12	RC 造店舗・共同住宅 施工図 作図演習(3)		3 階躯体平面図	
13	RC 造店舗・共同住宅 施工図 作図演習(4)		3 階躯体断面図	
14	RC 造店舗・共同住宅 施工図 作図演習(5)		根切り計画図	
15	まとめ		総合提出	
後 期（18 時限）				
週	教程		教程内容	
1	卒業制作(1)		構造図	
2	卒業制作(2)		建具リスト・建具表・仕上表	
3	卒業制作(3)		各階平面詳細図(1)	
4	卒業制作(4)		各階平面詳細図(2)	
5	卒業制作(5)		断面図	
6	卒業制作(6)		立面図	
7	卒業制作(7)		展開図	
8	卒業制作(8)		基礎躯体図	
9	卒業制作(9)		各階躯体図(1)	
10	卒業制作(10)		各階躯体図(2)	
11	卒業制作(11)		型枠支保工計画図	
12	卒業制作(12)		外部足場計画図・根切り計画図	
13	卒業制作(13)		各階コンクリート・型枠 数量算出	
14	卒業制作(14)		各階鉄筋 数量算出	
15	まとめ		卒業制作提出・卒業制作 STEP 発表会・講評	

専門科目	実技	施工管理実習	3学年 施工専攻	前期
目的・目標（指標）		<p>目的：実務に通ずる知識と技術を習得する。</p> <p>後期目標：RC造における基礎躯体工事の一連の作業（鉄筋組立て・型枠建込み）を実際に体験し、「施工管理者」としての「管理方法」ができるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		建設業において、配筋・型枠支保工等の基礎技術を有し、その教育の経験が豊富である。		
指 導 内 容				
前 期 （48時間）				
週	教程		教程内容	
1	安全管理		KY(危険予知)活動	
2	仮設工事		墨出し実習	
3	鉄筋工事		鉄筋の種類・記号の意味・仕様、配筋実習(基礎、基礎柱、基礎梁)	
4	型枠工事型枠工事、研究レポート		型枠の構成、躯体図、型枠組立実習、研究レポート作成	
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	実験	建築設備実験実習	3 学年 設備専攻	前期
目的・目標（指標）		<p>目的：室内環境など体感だけではなく、計測により数値化し、各種基準を理解する。</p> <p>前期目標：実験機器の操作方法を習得し、測定結果から各種の基準値に対して、適切かなどを判断することができるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期（3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	設備実験ガイダンス		設備実験ガイダンス	
2	設備実験	室内気候の諸測定(1)	室内気候の測定方法について 機器操作方法及び演習	
3		室内気候の諸測定(2)	室内気候の実測	
4		室内気候の諸測定(3)	レポート作成	
5		道路騒音の測定(1)	道路騒音の測定方法について 機器操作方法及び演習	
6		道路騒音の測定(2)	道路騒音の実測	
7		道路騒音の測定(3)	レポート作成	
8		機器の能力測定(1)	機器の能力測定方法について 機器操作方法及び演習	
9		機器の能力測定(2)	機器の操作方法及び演習	
10		機器の能力測定(3)	機器能力の実測	
11		機器の能力測定(4)	レポート作成	
12		照度の測定(1)	室内照度の測定方法について 機器操作方法及び演習	
13		照度の測定(2)	室内照度の実測	
14		照度の測定(3)	レポート作成	
15	まとめ		全レポートまとめ	
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	演習	リフォーム	3 学年 設備専攻	前期
目的・目標（指標）	<p>目的：住宅およびマンション等のリフォームについて、施主や管理組合への専門的なアドバイザーとしての基本事項を理解する。</p> <p>前期目標：工事に際し調整、指導、助言を行う能力を身につけると共にリフォーム計画ができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築士事務所を長年主宰運営され建築意匠分野の知識が豊富で、加えて建築についての歴史的背景にも造詣が深く当該科目の指導に適した講師である。</p>			
指 導 内 容				
前 期（3 時限）				
週	教程	教程内容		
1	概論・リフォームの調査と準備	リフォームとは 住宅と社会 設計の流れ リフォームの種類		
2	現場調査と図面の復旧作業	現地調査 実測 図面の復旧		
3	室内計画とリフォーム設計	動線・ゾーニング 採光・通風 照明 外構 収納		
4	設備計画とリフォーム設計	電気容量 水回り 最新エコ設備 既存配管の再生		
5	リフォームの設計演習(1)	室内設備のリフォーム プラン作成 プレゼンテーション		
6	構造計画とリフォーム設計	構造のチェックポイント 地盤と基礎 耐震計画		
7	性能アップ計画とリフォーム設計	断熱・結露 エコリフォーム 屋根 外壁・開口部 内装材 遮音・防音 既存材料を生かす		
8	リフォームの設計演習(2)	公団集合住宅のリフォーム 条件整理 テーマ設定		
9	リフォームの設計演習(3)	プラン作成 仕上表 プレゼンテーション		
10	リフォームで必要となるローンと資金計画	見積に必要な書類と図面 施工会社を選ぶ リフォームローン		
11	見積もりと契約	施主の自主施工 見積調整 価格管理 工事請負契約		
12	現場管理	現地説明会 近隣対策 解体・設計修正 現場管理 検査		
13	リフォームの設計演習(4)	総合的なリフォーム 条件整理 テーマ設定		
14	リフォームの設計演習(5)	プラン作成 設備図作成 建築概要 仕上表 プレゼンテーション		
15	まとめ	まとめ		
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	講義	電気設備	3 学年 設備専攻	前・後期
目的・目標（指標）	<p>目的：電気設備のシステムを理解し、図面の表現方法を理解する。</p> <p>前期目標：電気設備の基礎を理解し、オフィスビルの照明・コンセント設備の設計ができるようになる。</p> <p>後期目標：各自で設計した店舗併用集合住宅の電気基本設計ができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	建築設備設計を中心とした業務に携わり、設計監理の実績と電気設計における知識及び経験が豊富である。			
指 導 内 容				
前 期（3 時限）				
週	教程	教程内容		
1	電気設備とは	電気設備基礎、		
2	電気設備設計図（1）	関連法規 凡例表（シンボル）		
3	電気設備設計図（2）	電気設備設計図の作成方法		
4	電灯設備（1）	照度計算		
5	電灯設備（2）	照明の配置		
6	コンセント設備	コンセントの容量、配置		
7	幹線・動力設備（1）	幹線電圧降下計算（1）		
8	幹線・動力設備（2）	幹線電圧降下計算（2）		
9	オフィスビル電気設備（1）設計演習	照度計算・照明配置（1）		
10	オフィスビル電気設備（2）設計演習	照度計算・照明配置（2）		
11	オフィスビル電気設備（3）設計演習	照明の配線（1）		
12	オフィスビル電気設備（4）設計演習	照明の配線（2）		
13	オフィスビル電気設備（5）設計演習	コンセント配置、配線（1）		
14	オフィスビル電気設備（6）設計演習	コンセント配置、配線（2）		
15	オフィスビル電気設備（7）設計演習	電灯分電盤結線図、照明コンセント平面図、分電盤結線図		
後 期（6 時限）				
週	教程	教程内容		
1	環境問題、発電技術、自然エネルギーの活用	地球温暖化と発電方式、太陽光発電システム		
2	省エネルギー、情報通信設備	省エネルギー基準と省エネルギー手法、情報通信設備（弱電）		
3	住宅計画（集合住宅）（1）	受電方式		
4	住宅計画（集合住宅）（2）	住戸照明、コンセント設備		
5	住戸電気設備（1）設計演習	住戸照明コンセント配置・配線（1）		
6	住戸電気設備（2）設計演習	住戸照明コンセント配置・配線（2）		
7	住戸電気設備（3）設計演習	住戸電灯分電盤結線図		
8	住戸電気設備（4）設計演習	住戸照明コンセント図面まとめ		
9	卒業設計（1）設計演習	凡例表作成、照度計算		
10	卒業設計（2）設計演習	照度計算、照明器具決め、照明器具姿図		
11	卒業設計（3）設計演習	照明コンセント設備図（1）		
12	卒業設計（4）設計演習	照明コンセント設備図（2）		
13	卒業設計（5）設計演習	照明コンセント設備図（3）		
14	卒業設計（6）設計演習	電灯分電盤結線図		
15	卒業設計（7）設計演習	全体設計図まとめ		

専門科目	演習	設計演習	3 学年 設備専攻	前期
目的・目標（指標）		<p>目的：2 級建築士製図課題内容を理解する。  前期目標：2 級建築士の製図課題に対応できる計画力・作図能力を身に付け、建築士製図試験に対応できるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		<p>建築設計業を主宰運営され、当該演習科目での幅広い知識と教養をもって、高い指導力と授業運営能力を発揮できる講師である。</p>		
指 導 内 容				
前 期（3 時限）				
週	教程	教程内容		
1	2 級建築士製図対策概論	計画上のポイントの説明		
2	2 級建築士製図写図課題(1)	作図(1)－配置図兼 1 階平面図		
3	2 級建築士製図写図課題(2)	作図(2)－2 階平面図・立面図		
4	2 級建築士製図写図課題(3)	作図(3)－2 階床伏図兼 1 階小屋伏図		
5	2 級建築士製図写図課題(4)	作図(4)－矩計図		
6	2 級建築士製図写図課題(5)	作図(5)－面積表・仕上表・計画の要点 提出		
7	エスキース方法解説	実例解説		
8	2 級建築士製図製図課題(1)	エスキース(1)－ゾーニング・配置計画・平面計画		
9	2 級建築士製図製図課題(2)	エスキース(2)－構造計画のポイント・構造計画		
10	2 級建築士製図製図課題(3)	作図(1)－配置図兼 1 階平面図		
11	2 級建築士製図製図課題(4)	作図(2)－2 階平面図・立面図		
12	2 級建築士製図製図課題(5)	作図(3)－2 階床伏図兼 1 階小屋伏図		
13	2 級建築士製図製図課題(6)	作図(4)－矩計図		
14	2 級建築士製図製図課題(7)	作図(5)－面積表・仕上表・計画の要点 提出		
15	まとめ	講評		
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

専門科目	演習	施工演習	3 学年 設備専攻	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：「RC造地下1階地上5階店舗・共同住宅設計図」を基に、設計図及び施工図の写図を通して、施工プロセスや仕上材料等について学ぶ。</p> <p>後期目標：設計図・構造図を基に「施工図」を作図する能力を身に付けられるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（3 時限）				
週	教程		教程内容	
1	RC造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(1)	開口詳細図(1) RC造のアルミサッシの納まり	
2	RC造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(2)	開口詳細図(2) 作図	
3	RC造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(3)	WD詳細図(1) 木製建具の納まり	
4	RC造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(4)	WD詳細図(2) 作図	
5	RC造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(5)	基準階平面詳細図(1) 外壁の仕上・開口部の納まり	
6	RC造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(6)	基準階平面詳細図(2) 各種壁の構造と仕上材料・記号の意味	
7	RC造店舗・共同住宅	設計図 写図演習(7)	基準階平面詳細図(3) まとめ	
8	RC造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(1)	基準階躯体平面図(1) 各種開口部の躯体寸法・記号の意味	
9	RC造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(2)	基準階躯体平面図(2) 作図	
10	RC造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(3)	基準階躯体断面図(1) 防水仕上とパラペット	
11	RC造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(4)	基準階躯体断面図(2) 作図	
12	RC造店舗・共同住宅	施工図 作図演習(5)	基準階躯体断面図(3) 各種寸法・記号の意味・作図	
13	RC造店舗・共同住宅	躯体数量積算(1)	建築数量積算基準の復習 コンクリート部材・鉄筋・基礎部分	
14	RC造店舗・共同住宅	躯体数量積算(2)	躯体数量積算演習 基準階部分	
15	まとめ		まとめ	

専門科目	講義	専攻概論	3 学年 設備専攻	前・後期
目的・目標 (指標)		<p>目的：2 級管工事施工管理技士 (学科) の過去の資格試験で出題された問題を解きながら、国家試験のレベルを知り、解答のテクニックを体得する。</p> <p>前期目標：2 級管工事施工管理技士 (学科) の受験者に対して 80%以上の合格率を目指す。</p> <p>後期目標：2 級建築施工管理技士 (学科) の受験者に対して 80%以上の合格率を目指すとともに消防設備士の試験に対応できるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期 (3 時限)				
週	教程		教程内容	
1	2 級管工事施工管理技士	一般基礎 I	環境工学、流体力学	
2	2 級管工事施工管理技士	一般基礎 II	熱力学、電気工事	
3	2 級管工事施工管理技士	給排水衛生設備 I	上下水道、給水、給湯	
4	2 級管工事施工管理技士	給排水衛生設備 II	排水、通気、浄化槽	
5	2 級管工事施工管理技士	給排水衛生設備 III	消火、ガス	
6	2 級管工事施工管理技士	空気調和設備 I	空気負荷、空気線図	
7	2 級管工事施工管理技士	空気調和設備 II	空調方式、制御	
8	2 級管工事施工管理技士	空気調和設備 III	換気、排煙	
9	2 級管工事施工管理技士	設備材料 I	機器	
10	2 級管工事施工管理技士	設備材料 II	管材	
11	2 級管工事施工管理技士	設計図書、施工管理 I	設計図書、施工計画、工程計画	
12	2 級管工事施工管理技士	施工管理 II	品質管理、安全管理	
13	2 級管工事施工管理技士	法規 I	労働安全衛生法、労働基準法	
14	2 級管工事施工管理技士	法規 II	建設業法、建築基準法、消防法	
15	2 級管工事施工管理技士	法規 II	その他の法	
後 期 (3 時限)				
週	教程		教程内容	
1	2 級管工事施工管理技士	模擬試験 (1)	演習問題 (1)	
2	2 級管工事施工管理技士	模擬試験 (2)	演習問題 (2)	
3	2 級管工事施工管理技士	模擬試験 (3)	演習問題 (3)	
4	2 級管工事施工管理技士	模擬試験 (4)	演習問題 (4)	
5	2 級管工事施工管理技士	模擬試験 (5)	演習問題 (5)	
6	消防設備士対策 (1)		機械・電気に関する基礎的知識 (1) 機械	
7	消防設備士対策 (2)		機械・電気に関する基礎的知識 (2) 電気	
8	消防設備士対策 (3)		関係法令 (1) 消防組織法、消防法	
9	消防設備士対策 (4)		関係法令 (2) 消防法、消防法施行令、施行規則	
10	消防設備士対策 (5)		機能・構造及び工事・整備 (1) 屋内消火栓設備	
11	消防設備士対策 (6)		機能・構造及び工事・整備 (2) スプリンクラー設備	
12	消防設備士対策 (7)		機能・構造及び工事・整備 (3) 屋外消火栓設備、水噴霧消火設備	
13	消防設備士対策 (8)		鑑別	
14	消防設備士対策 (9)		製図 (1) 屋内消火栓設備、屋外消火栓設備	
15	消防設備士対策 (10)		製図 (2) スプリンクラー消火設備、水噴霧消火設備	

専門科目	演習	CAD製図	3学年 設備専攻	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：設備施工図の読み方を理解し、設備専用CADの操作方法を習得する。 後期目標：建築と設備機器・配管との関係を施工の面から理解し、各自で設計した給排水衛生設備図が作図できるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（3時限）				
週	教程	教程内容		
1	設備専用CAD演習(1)	設備専用CAD 設備配管操作演習		
2	設備専用CAD演習(2)	設備専用CAD 基本操作演習		
3	設備専用CAD演習(3)	演習課題による平面詳細作成(1)		
4	設備専用CAD演習(4)	演習課題による平面詳細作成(2)		
5	設備専用CAD演習(5)	演習課題による平面詳細作成(3)		
6	設備専用CAD演習(6)	便所詳細図作成(1)		
7	設備専用CAD演習(7)	便所詳細図作成(2)		
8	設備専用CAD演習(8)	便所詳細図作成(3)		
9	設備専用CAD演習(9)	便所詳細図作成(4)		
10	設備専用CAD演習(10)	便所詳細図作成(5)		
11	設備専用CAD演習(11)	便所詳細図作成(6)		
12	設備専用CAD演習(12)	3D画像・アイソメ図等の作成(1)		
13	設備専用CAD演習(13)	3D画像・アイソメ図等の作成(2)		
14	設備専用CAD演習(14)	プレゼンテーションボードの作成(1)		
15	設備専用CAD演習(15)	プレゼンテーションボードの作成(2)		

実習科目	実習	設備専攻実習	3 学年 設備専攻	前・後期
目的・目標（指標）		<p>目的：給排水衛生・空気調和換気設備のシステムを理解し、図面の表現方法を習得する。  前期目標：給排水衛生・空気調和換気設備システム・設備図の表現方法が理解できるようになる。  後期目標：小規模オフィスビルの建築設備基本設計ができるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期（12 時限）				
週	教程		教程内容	
1	第 1 課題	住宅の給排水衛生設備計画(1)	給排水衛生設備概論 配管設計	
2	第 1 課題	住宅の給排水衛生設備計画(2)	配管	
3	第 1 課題	住宅の空気調和換気設備計画(1)	空気調和換気設備概論 空調設備（個別空調）設計	
4	第 1 課題	住宅の空気調和換気設備計画(2)	換気設備設計	
5	第 1 課題	住宅の空気調和換気設備計画(3)	換気設備作図	
6	第 2 課題	集合住宅の給排水衛生設備計画(1)	給排水衛生設備概論 屋内配管設計	
7	第 2 課題	集合住宅の給排水衛生設備計画(2)	屋内配管作図	
8	第 2 課題	集合住宅の給排水衛生設備計画(3)	屋外配管設計	
9	第 2 課題	集合住宅の給排水衛生設備計画(4)	屋外配管作図	
10	第 2 課題	集合住宅の空気調和換気設備計画(1)	空気調和換気設備概論 住戸空調設計	
11	第 2 課題	集合住宅の空気調和換気設備計画(2)	住戸空調作図	
12	第 2 課題	集合住宅の空気調和換気設備計画(3)	店舗空調設計	
13	第 2 課題	集合住宅の空気調和換気設備計画(4)	店舗空調作図	
14	第 3 課題	オフィスの給排水衛生設備計画	給水設備・排水設備・通気設備	
15	第 3 課題	オフィスの空気調和換気設備計画	空調設備（個別空調）（セントラル空調）	
後 期（12 時限）				
週	教程		教程内容	
1	卒業制作(1)		基本計画	
2	卒業制作(2)		基本計画	
3	卒業制作(3)		基本計画 システム計画(1)	
4	卒業制作(4)		基本計画 システム計画(2)	
5	卒業制作(5)		基本計画 システム計画(3)	
6	卒業制作(6)		基本計画 機器概算計画(1)	
7	卒業制作(7)		基本計画 機器概算計画(2)	
8	卒業制作(8)		基本計画 機器概算計画(3)	
9	卒業制作(9)		基本計画図面作図(1)	
10	卒業制作(10)		基本計画図面作図(2)	
11	卒業制作(11)		基本計画図面作図(3)	
12	卒業制作(12)		基本計画図面作図(4)	
13	卒業制作(13)		基本計画図面作図(5)	
14	卒業制作(14)		基本計画図面作図(6)	
15	卒業制作(15)		基本計画図面作図(7)	

実習科目	実技	施工管理実習	3学年 設備専攻	後期
目的・目標（指標）	<p>目的：実務に通ずる知識と技術を習得する。  後期目標：設備工事（給排水衛生設備）における一連の作業を実際に行い、施工方法・管材の知識・工具の取扱を習得した上で、設備工事管理ができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	建設業において、配管・ダクト等の基礎技術を有し、その教育の経験が豊富である。			
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
後 期（48 時限）				
週	教程		教程内容	
1	配管加工学科		配管 配管材料 配管接続法 指示金物 勾配の取り方	
2	設備工事（配管工事）Ⅰ		配管の切断 端部加工 機器の使用法	
3	設備工事（配管工事）Ⅱ		配管のねじ切り 機器の使用法	
4	設備工事（配管工事）Ⅲ、研究レポート		配管の接続、研究レポート作成	
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				